てんとさいと

絵：中島秀子

草加山の会　No.216

楽しかったなぁ～雪山･冬山

春もすぐそこだよ～

目次

●コール ---- 池本 均 ---- 1
●2011 年 12 月～2012 年 2 月山行実績 ---- リーダー ---- 2
●心に残る山旅 ---- 上原 すみ ---- 3
●荒島岳 ---- 山崎 正夫 ---- 4
●会員紹介 ---- 山口 敏雄 ---- 5
●会員紹介 ---- 渋谷 久美子･箱井 節子 ---- 6
●会員紹介 ---- 長田 一樹 ---- 7
●会員紹介 ---- 小池 祐二・小池 典子 ---- 8
●会員紹介 ---- 西方 多鶴子・大畑 英子 ---- 9
●会員紹介 ---- 沼田 真澄 ---- 10
●会員紹介 ---- 兼堀 喜和・兼堀 恵美子 ---- 11
●会員紹介 ---- 大門 京子・森 律子 ---- 12
●会員紹介 ---- 菅野 淳也・三浦 藤博 ---- 13
●会員紹介 ---- 鎌形 瑞枝 ---- 14
●会員紹介 ---- 牛山 信康 ---- 15
●会員紹介 ---- 加藤 紀久代 ---- 16
●会員紹介 ---- 磯川 剛 ---- 17
●高川山 ---- 張替 清治 ---- 18
●三滝～熊鷹山 ---- 新庄 八重 ---- 19
●桜山 ---- 千葉 かつ子 ---- 20
●赤雪山～仙人ヶ岳 ---- 樋口 淳一 ---- 21
●天子山塊 ---- 山口 裕史 ---- 22
●天狗岳（クリスマス山行） ---- 加藤 紀久代 ---- 23
●浜石岳 ---- 大門 京子 ---- 25
●花嫁街道 ---- 八並 絹代 ---- 26
●生瀬富士～土岳 ---- 鏑木 国夫 ---- 27
●ロッククライミング ---- 長田 一樹 ---- 29
●宝登山 ---- 大畑 英子 ---- 30
●大山 ---- 山崎 正夫 ---- 31
●谷川雪洞 ---- 尾崎 あや子 ---- 33
●雲龍渓谷 ---- 山口 裕史 ---- 34
●法久峠～雨降山（峠シリーズ） ---- 小林 いつ子 ---- 35
●雲龍渓谷 ---- 森 律子 ---- 37
●山行紀行～冬～ ---- 浅井 祐子 ---- 38
●＊天狗岳（八ヶ岳） ---- 〃 ---- 38
●＊黒斑山 ---- 〃 ---- 38
●＊金時山 ---- 〃 ---- 38
●＊菅の倉山～金勝山 ---- 〃 ---- 38
●＊社山（日光） ---- 〃 ---- 38
●甲州街道（鳥沢～笹子） ---- 石井 文子 ---- 39
●三つ峠～本社ヶ丸 ---- 山口 裕史 ---- 41
●妙法ヶ岳・三峰神社 ---- 園木 毅 ---- 42
●北横岳・三岳・雨池山 ---- 三浦 藤博 ---- 43
●秩父四阿屋山 ---- 染谷 智行 ---- 45
●塩見岳 ---- 長田 一樹 ---- 46
●丸・マルと名前の付く山の由来 ---- 松浦 剛 ---- 49
●編集後記 ---- 製本参加者

コール

記：池本　均

今年、数名の会員及び会ＯＢからの年賀状には、定年退職しましたと、記されていました。私が、入会した頃、彼らは、アラウンドサーティで、仕事に、山に、脂ののっている盛りで、時の経過を考えると、感慨深いものがあります。翻って、自分自身を考えると、登山経験のないまま、夏合宿の飯豊連峰縦走に参加し、先輩たちに従って、石コロビ大雪渓を怖々下ってから、２７年がたちます。その間、結婚、子の出生、成長と人並みに経験し、貧乏暇なしの自営業者ですので、山ともご無沙汰の期間が続きました。

しかし、今年の目標は、月１回の山行と５年前の白峰三山縦走以来の縦走に参加したいので、皆さん宜しくお願いします。それと並行して、甲州街道歩きも続行し、学生時代、果たせなかった、本庄―早稲田１００キロハイクにも一般参加したいと思っています。今回のコールは、新会員の皆様への名刺代わりの自己紹介と、長い冬眠生活の自分へのお目覚めコールとなってしまいました。

平成 23 年 12 月～２４年１月・２月山行実績　　リーダー部

山行	日程	山岳名	リーダー	参加者
個人	9/4	荒島岳	山崎	山口と　前号掲載漏れ
個人	12/8	熊鷹山	新庄	山本、下川、小宮、千葉、大畑、陽子
会	12/11	桜山忘年山行	園木	森、祐子、下川、尾崎、千葉、西片、黒澤、阿部、松田、杉山、中島、山本、松浦、鎌形、畑野、いつ子、真一、小宮、昭光、美津江、上原、箱井、新庄、和田、小野寺
個人	12/22	赤雲山～仙人ヶ岳	新庄	千葉、八並、樋口、山本
個人	12/24～25	北八　天狗岳	石井	昭光、祐子、山口と、加藤、森、松田、小野寺
個人	12/30	天子山塊	山口ひ	三浦、山口と
個人	11 月~1 月	クライミング練習	長田	沼田、他
個人	H24 年 1/4	高川山	里子	千葉、黒澤、上原、新庄、大門、尾崎、八並
個人	1/7	黒斑山	祐子	いつ子、森、樋口、加藤
会	1/7	浜石岳	園木	大門、千葉、下川、阿部、八並、宮子、山口と、森、小宮
会	1/8	花嫁街道	上原	黒澤、中島、畑野、里子、陽子、新島、大木、渋谷，廣、池本、前田、杉山、八並、新庄
個人	1/6 夜～9	南ア、塩見岳	石井	昭光、松浦、三浦、勝幸、山口ひ、長田
個人	1/17～1/18	生瀬富士・土岳	小宮	山本、下川、阿部、鏑木、新庄、千葉、里子、陽子、大畑、黒澤、小野寺
個人	1/18	三峰神社～奥宮	園木	(単独行)
個人	1/25	大山	山崎	下川
個人	1/28	雲龍渓谷	山本	小宮、阿部、下川、山崎、いつ子、森、新島
個人	1/28	金時山	祐子	昭光
個人	1/29	雲龍渓谷	山口ひ	山口と、三浦、菅野
個人	2/4	官ノ倉山	山崎	山口と、樋口、祐子
リ	2/4～2/5	雪洞（谷川西黒尾根）	浅井	石井、菅野、三浦、勝幸、山口ひ、森、大門、尾崎、加藤、廣
会	2/5	宝登山	大畑	畑野、園木、上原、新庄
個人	1/11～1/12	法久峠・杉ノ峠	園木	松浦、下川、樋口、いつ子
個人	1/11	社山（日光）	祐子	山本、山崎、加藤、森、
個人	2/12	甲州街道	石井	文子、和田、鏑木、平野、阿部、池本、里子、廣、黒澤、大木、陽子、木原、上原、大門、田村、杉山、大畑、染谷
個人	2/18	三つ峠本社丸	山口ひ	山口と、
個人	2/25	北横岳～三岳	山口ひ	三浦、菅野、森
会	2/26	秩父四阿屋山	畑野	千葉、渋谷、上原、大門、新島いつ子、染谷、張替、樋口

心に残る山行

心に残る山行と問われると、山の会に入会して 11 年余りになりましたが、四季折々に姿を変えて迎えてくれた、沢山の山々の思い出が走馬灯のように浮かびます。冬の北八ヶ岳のダイヤモンドダスト・谷川岳の雪洞・沢山の名も知らない高山に咲く花々や、混雑で缶詰め状態の山小屋、針の木岳や白馬の大雪渓の長い登り下り、足の竦むような
岩稜と、とめどなく思い出されます。

その中で、特に強く心に残ったのは、平成 15 年の 7 月に登った、
北アルプス唐松岳～五竜岳～鹿島槍ヶ岳の山行です。特に、五竜山荘から見た雲海に沈む夕日に強烈な感動を覚えたことです。
遅まきながら山登りに目覚め、事前に、岩トレに参加し情報も集め準備をして臨みました。

天候を気にしながら夜行バスでの出発でした。
五竜山荘に着いたのは午後 4 時少し前、夕食の時間を待っている間、窓の外を見ると雲海の中に、目を見張るような太陽が沈む寸前でした。
大勢のハイカーの歓声と、カメラのシャッターが一斉に押されて、
この素晴らしい光景に一瞬言葉を失い、暫し見とれていました。
生まれて初めて見る絶景に、胸に熱いものが込み上げ、ここに来られた幸せをしみじみと感じました。

翌日は、天気も良好で五竜岳を目指し早朝に出発しました。ここでは、山頂近くでご来光を拝し、真っ赤な太陽が徐々に姿を現し、神聖な場所に居るような、不思議に身の引き締まる思いでした。
梯子・鎖の連続と岩稜との戦い、今回一番の難所のようで、緊張感も最高潮でした。

鹿島槍ヶ岳北峰から南峰へ、そこから冷池山荘に向かいますが、今までとは様子が一変し、花を愛でる余裕も出てきました。
下山途中の尾根道では、雷鳥の親子にも出会えて幸せな気分！

三日間に体験したことや
情景は、生涯記憶に残しておきたい一コマです。

記：上原　すみ

荒 島 岳 （1523.5m）

（福井県越前大野市）　　記：山﨑 正夫

【日 程】2011(平成 23).09.04(日)　登山標高差＝1195.3m　累積高度＝1240m

【天 候】雨(台風１２号)【ﾒﾝﾊﾞｰ】L.山﨑、山口(敏)

【コース】

9/3(土) 6:00 草加駅＝12:10 加賀温泉駅＝21:00 福井駅前ホテル(泊)

9/4(日) 8:30 福井駅＝9:30 勝原(ｶﾄﾞﾊﾗ)駅＝9:40 ﾛｯｼﾞ・ｷﾞﾝﾚｲ駐車場 10:00～10:50 登山口～11:31 白山ベンチ～11:40 深谷の頭～12:15 シャクナゲ平～12:35 佐開分岐～13:15 中荒島～13:25 荒島岳 13:35～14:47 白山ベンチ～15:40 ﾛｯｼﾞ・ｷﾞﾝﾚｲ駐車場＝勝山・越前大仏＝白峰温泉御前荘(泊)

9/5(月) 白峰温泉＝市ノ瀬駐車場～別当出合～砂防新道～中飯場～甚之助避難小屋～南竜山荘(泊)

9/6(火) 南竜山荘～甚之助避難小屋～中飯場～砂防新道～別当出合～市ノ瀬駐車場＝白山比咩（しらやまひめ）神社＝那谷（なた）寺＝加賀温泉駅 16:25＝22:43 草加駅

福井駅でレンタカーを借り、ＪＲ越美北線終着駅の勝原駅に着く。趣のある駅舎と周辺を見て、駐車場に着く。台風の進路予想が大きく変わり、台風一過の上天気のはずが、台風の中、出発となる。車が１台来たが引き返す。登るのは我々だけである。５０分歩くと壊れたリフト終点。登山口の標識。それまでの道はスキー場の敷地ということか。スキー場は閉鎖状態で、スロープには廃チップ材がダンプカーから降ろした形で積んである。

ブナ林が台風で唸る中、割と急な登り道を歩く。風が強い中、ようやくシャクナゲ平に着く。ほどなく佐開分岐、中荒島を経て、荒島岳山頂。強風の中、展望無し。冬の白山方面のくっきりした写真が置いてある。平成１５年１１月に撤去された無線中継所のコンクリート基礎の一部が残っている。強風かつ寒いので早々に引き返す。まもなく誰もいないと思っている山中で、地元福井市の５０代の男性が一人でやってきた。帰りはこの男性が追いついてきて話しながら降りる。荒島岳はトレーニングの為５０回位歩いており、冬場は白山より荒島岳の方が危険で、毎年死者が出ていることを聞く。駐車場で雨具をとり、この男性と別れて、勝山市の越前大仏に参拝し、白山麓の白峰温泉を目指す。

～会員紹介～

氏　名　　：　渋谷　久美子　（しぶや　くみこ）　平成 22 年入会
生年月日：昭和 25 年 3 月 11 日（うお座Ａ型）
出　身　地：佐賀県
草加在住：1975 年～37 年間住んでいます。

▲山歴……山の魅力を教えてくれたのは父…？
（子供の頃、山芋ほり、山菜とりなど、生活密着の山へ登りました。）九州には阿蘇山、九重、高千穂とすばらしい山あります。
40 才代は北は利尻岳、南は宮之浦岳と東北の山、北海道の山とよく登りました。
（20 代～30 代は子育ての時期、冬眠中でした。）
▲山の魅力……山頂までの景色、花、鳥の声、温泉，地場の味覚、それに仲間マイペースで行ける事
▲　入会して一年が過ぎました。
皆様に声を掛けていただき、若さあふれる山行を楽しんでいます。

氏　名　：箱井　節子　（はこい　せつこ）平成 22 年入会
生年月日：昭和 32 年 11 月 9 日（さそり座Ａ型）
出 身 地　：埼玉県草加

山歩きを始めたのは 30 年以上前のことで、年に 2~3 回しか山へ行かない初心者ばかりの女子ワンゲル部に入ってからです。その時の合宿で初めて登った奥穂・北穂に感動して、卒業してからも、友達と山登りを続けていました。けれど楽しい青春時代も結婚したら、すっかり遠ざかってしまい、また山へ行けるとは思ってもいませんでした。
私の今の怠けた身体では、行ける山も限られてきますが、目標は春から秋の間、月一回、ゆっくり楽しんで山登りに行けたらいいな…と思っています。
他に好きなことはミステリー小説と映画を観ることです。これからもよろしくお願い致します。

～会員紹介～

氏　　名：山口　敏雄　（やまぐち　としお）平成 20 年入会
生 年 月 日 ：昭和 21 年 1 月 15 日（やぎ座ＡＢ型）
出　身　地:　山形県　上の山市
私の心の山　蔵 王 山

私の故郷は山形の上ノ山市で、江戸時代には羽州街道の宿場町として栄えた城下町です。古くからの温泉町としても賑わっており、林檎・ラフランス・葡萄・さくらんぼ等果物の産地でもあります。私の心の山は子供の頃から朝な夕なに仰ぎ見て育った蔵王山で、初めて蔵王山に登ったのは５０数年前の小学４年の夏休みに兄達との２泊３日のテント山行でした。

麦わら帽子をかぶり、ボンネットバスに揺られて蔵王山中腹の硫黄精錬所の蔵王鉱業所に到着。暑い日差しに喘ぎながら山道をたどり標高１０００Ｍの蔵王坊平高原に到着し、旧陸軍の三角型テントを張り、枯れ木を拾い集め、石のかまどを作っての飯盒炊爨、盛大なキャンプファイヤーの一夜は胸がワクワクする体験でした。

坊平高原の「お清（おしず)」からブナの巨木の尾根道を登って行くと高度が上がるに従い、闊葉樹林帯から青森トドマツの針葉樹林に変わり、天上の花園の「御田の神」に到着するとそこは平坦な湿原で湿性高山植物の宝庫であった。「刈田岳」へのハイマツの道をたどる頃には溶岩のゴロゴロした今まで見たことない荒涼とした光景に一変した。

山形県と宮城県の県境で分水嶺の「馬ノ背」に到着した途端、眼前にパックリと口を開けた蛤のようでコバルトブルーの水を湛えた火口湖「お釜」の思わず息を呑む予想だにしない凄絶な大展望に接し、一瞬にして汗も引き震えるほどの感動を覚えた。

刈田嶺神社にお参りし、雪渓に続く急なガレ場を火口原に下りてお釜を取り巻く目も眩む外輪山の「五色岳」を一周し、蔵王連峰最高峰の「熊野岳」への溶岩の絶壁を震えながらよじ登ったが、岩燕と山頂での赤とんぼの大群が印象的でした。

熊野岳山頂では熊野神社に参詣し、郷土の生んだ大歌人「斎藤茂吉」の「陸奥をふたわけざまに聳え賜う蔵王の山の雲の中に立つ」の歌碑の前から生地上ノ山盆地を望み、はるか彼方に霞む鳥海山,たおやかな月山､盟主大朝日岳に連なる朝日連峰､重畳たる飯豊連峰､野武士のごとき吾妻山の大観に新たなる感動に酔いしれた。

熊野岳から地蔵岳を経て三方荒神山との鞍部から冬季には「樹氷」に変身するアオモリトドマツの林立するザンゲ坂・片貝沼・ドッコ沼から高湯（蔵王）温泉へ下山した。

高湯温泉外れの「鳴ノ谷地湖畔」にテント泊し､「上の湯・河原湯」の温泉では硫黄泉が日焼けた肌に滲み込み思はず飛び上がり、あとで因幡の白兎の故事を想起した。

高湯温泉から上ノ山への帰り道に、田圃の畦道に腰を下ろしはるか遠くの朝日連峰に沈む夕日を浴びながら聴いた兄の友人の吹く草笛の「赤とんぼ」の物悲しいメロディーと、暮れなずむ赤い夕日の大光景と日が沈んだあとの一瞬の静寂は、ドボルザークの「新世界交響曲」を聴くたびに目に浮かび、以来５０有余年の間数多くの名山に登ったが、初めての蔵王登山は一生の思い出として心の底に焼き付いている。」

～会員紹介～

氏　名　：長田　一樹　（おさだ　かずき）　平成 22 年入会
生年月日：昭和 41 年 6 月 5 日（ふたご座 O 型）
出 身 地 ：東京都　足立区

古今東西小さな子供は旅人の冒険話に食い入る様に聞き惚れて、何時かは僕もと心に誓うのですが、それって行った事が無い山行報告をワクワクしながら聞いている、今の自分と何が違うのかと冷静に考えると「オレハナンサイニナッタンダロウ」と考えても仕方が無い事が頭の中にムックリと起き上がってくる･･･。
登山への入り口は自転車だった！前に進む感覚が面白くて自分の力だけが頼りで、自分が考えているよりもっと遠くへ行けるのだなと思えたのが自転車だ。横方向へ、これだけ行けるなら縦方向へは？ってのがキッカケだ！

登山なんて学生時代の林間学校や遠足での登山と、小さい頃に田舎の親戚に連れて行かれた富士山や八ヶ岳ぐらいしかない。山登りと言うと道迷いでの遭難や滑落での死亡や怪我のニュースを聞いていたし、何故か谷川岳一ノ倉沢でのザイルを切る為の機銃掃射を思い出したり、知り合いの奥さんの遭難を正月休みの TV で知ったというマイナスイメージしかなかった。自転車でのヒルクライムを始めた頃であり、自転車で乗鞍岳が登れるなら登山って割と楽なのでは？と思い、取り敢えず始めてみようと調べて行ったのが鳴虫山だった。車で行くのは体力を使い切った時に帰れるか不安だったのと、降りたらビールが飲めると電車で行ける所で駅から近く低山との条件で決めたのだ。盛夏で藪が凄いし傾斜もあるしで散々だったが、帰り道でのビールは美味かった。登山自体は展望も無かったし暑いし最悪だったのだが、何故か一ヵ月後の、お盆休みに母の実家をベースにして大菩薩と金峰山・瑞垣山を日帰りで計画していた。大菩薩は小雨で最悪だった、ガスで展望は無いし登り足らずにもう一度違うコースから登っていた。
面白くないなと思い、金峰山と瑞垣山の日帰りでも何も感じなければ登山は辞めようと思っていた。金峰山を登っている途中、薄暗い樹林帯から抜け出て岩を乗り越えた瞬間に登山のイメージが一転する。一気に視界が開けて風と太陽が当たり、今迄の感触とは違うと本能的に思った。足元から急激に落ちる岸壁にビビッて目線を上げると、父親の実家付近の景色が見え、見た事が無い景色の筈が見た事が有ると云う不思議な感覚を感じ、離婚をして鬱蒼としていた時期だったのが嘘の様に晴れ晴れとした気分になり、興奮するというか心が浮き立つというか久しぶりの高揚感を味わった。更に下山途中に寄った瑞垣山山頂から見たクライミングしていた人を見て、何て危ない事してんだと思ったのが全ての始まりでは無いかと今は思っています。その後は、鳳凰三山縦走、高尾山陣馬山縦走、冬は櫛形山２回、乾徳山、伊豆ヶ岳～横瀬双子山と登ってみて心に残ったのが乾徳山、伊豆ヶ岳の岩場だったので、岩場での動作を学びたいのと、単独行に限界を感じて「草加　山岳会」で検索してヒットしたのが御縁だと思います。　今、何故か自転車は、埃？イヤ誇りを纏って私を待っています。と書きましたが今は、私が骨折で埃を被っています････

.～会員紹介～

氏　名　：小池祐二　（こいけ　ゆうじ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 41 年 6 月 5 日（ふたご座Ａ型）
出 身 地 ：埼玉県

私共が草加山の会に入会するきっかけはは、既に草加山の会で活躍されております、杉山様と知り合いだった事がはじまりでした。また以前、ダイビングの仲間が夫婦で登山をしており、一緒に同行させてもらっていたのも、もう一つのきっかけにもなっています。

仕事が不規則で、なかなか前もって予定を立てて行くことが難しいのですが、何とか一ヶ月に一回のペースで行くことを目標にしています。

いつも二人でのんびりとしたペースで登っていると、周りの静かな自然や、偶然、出会った野性動物達を見ていると、毎日の仕事のストレスから解放される感じがします。

勿論、山頂に立つことが出来た時の達成感は何と表現したら良いのか、分からない位に嬉しく思います。
特に山頂での食事の味は、格別に美味しく、食事をする為に山に登っているように思える時があります。

また、登山はは楽しい事ばかりを与えてくれる訳ではありません。天候が急変して、雷と豪雨の岩山を休憩なしで下山した事。

標高 2.000 メートルを超えた辺りから，体調を崩しながらも、山行を続行して何とか登頂から下山出来た事。時には暴風の中、登り始めようとした時に、たまたま居合わせた現地ガイドに止められた事など、偶然、無事に戻れた様な事が多々ありました。これらの辛かった経験も又、明日からの仕事の活力源にもなっています。

不思議なのは何度辛い目に遭っても懲りないと言いますか、2 人共に、また何処かに登りたくなってしまう事。登山は二人の共通の趣味であり、また、辛くて楽しい思いを共有する手段となっています。
経験はまだまだ浅いですから、どんな山でも登って見たい気持ちがあります。
今は場数を踏み、年々、レベルを上げて行きたいと思っています。

氏　名　：小池　典子　（こいけ　のりこ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 32 年 5 月 1 日（おうし座 O 型）
出 身 地 ：福島県

～会員紹介～

氏　名　：西方　多鶴子（にしかた　たずこ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 29 年 6 月 4 日（ふたご座 A 型）
出 身 地 ：宮城県　気仙沼市

高校時代にワンゲル部にあこがれましたが、なにせ片道 2 時間弱の田舎から通学ですので、部活は出来ませんでした。

職場で大門さんが楽しそうに山の話しをするのを聞き、行ってみたいな･･･と言ったら奥多摩に誘ってくれました。
あらためて自然の中で
遊ぶ楽しさを知り、山の会の仲間に加えてもらおうと思いました。
1 人では中々出来ないことも皆さんに教えていただきながら、楽しい汗をかいて、元気に過ごしていくのが目標です。

氏　名　：大畑　英子　（おおはた　えいこ）平成 22 年入会
生年月日：昭和 21 年 8 月 26 日（おとめ座 A 型）
出 身 地 ：栃木県　鹿沼市

2009 年 12 月の武甲山の忘年山行に誘われて同行させて頂いたのが入会のきっかけです。
山の会とのお付き合いは以前からありました。
一般参加のバスハイクや会員山行の時でもさそわれて参加しており、本当に長いお付き合いです。
その度に入会を促されていましたが、その頃はまだ会員になることに、いつもためらってました。あの頃に入会していたら、もっと楽しめていたかも知れませんが･･･
鳥海山がいちばん印象に残っています。（きつかったから？）

～会員紹介～

氏　名　：沼田　真澄　（ぬまた　ますみ）平成 21 年入会
生年月日：昭和 51 年 1 月 14 日（やぎ座Ｏ型）
生 身 地 ：埼玉県　草加市

山口裕史くんと同級生ということがあり、敏雄さんの温かい誘いに導かれて、草加山の会に入会させて頂きました。入会してからは、岩登り、沢登り、雪山登山、テント泊など色々と体験させて頂きました。とても感謝しております。

色々と体験してみて､自分の興味がフリークライミングと沢登り、そしてバリエーションに向かっていることに気づきました。飲みの席などで、技術的にあまり教えられないから、ほかのところで学んだ方がいいよと何度かアドバイスを頂き、講習会に参加したりするようになりました。そして、縁があって大宮アルパインクラブにも入会しました。そこでは、埼玉県岳連やさいたま市岳連の様々な講習が受けられるので、技術的なことを体験的に学んでいます。

まだまだ経験が乏しく、レベル的にも低いですが、何度も学んで自分のものにして、いつしか草加山の会でもその技術を生かせたらと思います。会では、フリークライミングをしている方がいないので、その領域で役にたてたらと思います。とはいっても、まだ 5.10a くらいしか登れません。なんとか今年中に、ジムでは、5.11a を安全にリードできるようになれるように頑張りたいです。（ちなみに衝立岩雲稜第一をフリーで登ると、5.11d）現在､去年の足首捻挫の後遺症のため､まだハイキングも普通にできる感じではありません。クライミングもまだまだ微妙な感じです。やっと正座を１分できるようになったくらいです。いつ完治するかはわかりませんが、少しずつリハビリをしていって早く復活できるようにしたいです。
一応の今年の目標としては、フリークライミングでは城山のバトルランナー5.10ｂ（前回A0）を完登する。沢登りでは、万太郎本谷を遡渓する。バリエーションでは、北岳バットレスを登る。ほかにも色々ありますが、とりあえずはそんなところです。基本的に、山歩きは大好きなので、これからも何かとお世話になるかと思いますが、みなさまどうぞよろしくお願いいたします。
好きなアルパインクライマー：　山野井泰史
山で求めているもの：　山力を引き出すこと
山で好きなこと：　独りになれること
山で遠慮したいこと：　閉塞感を感じること
山行の副次的な楽しみ：　温泉入浴
現実的に行きたい山：　アイガー、カイラス。

～会員紹介～

氏　名　：兼堀　善和　（かねほり　よしかず）平成 23 年入会
生年月日：昭和 27 年 9 月 11 日（おとめ座Ａ型）
出 身 地　：静岡県掛川市

静岡県掛川市で生まれ育ち、当時海より山遊びで駆け回っていました。
私が山歩きに、本格的に挑戦を始めたのは、２００７年勤務先の先輩に誘われて、
尾瀬に連れて行ってもらったのが最初でした。
その年に金峰山にも行き、大弛小屋宿泊で初めて電気がない、風呂もない山小屋があたりまえなのだと知りました。
もう年齢も５９歳となり、今後生涯の大きな趣味のひとつとして、夫婦で共有できる生甲斐、趣味として山歩きを大切にして行きたいと思っています。
この草加山の会は、妻に誘われ、２０１０年公開バスハイクで
竜ヶ岳に参加させて頂き、会員の方達の気さくさと同年代の話しやすさで会員にさせて頂きました。静岡から出てきて、仕事一辺倒で、地元との関わりもなかったのですが、今後山の会を通じて、より充実した生活にしたいと思っています。
今後とも、経験浅い私ですが、よろしくお願いします。

氏　名　：兼堀　恵美子（かねほり　えみこ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 27 年 5 月 17 日（おうし座Ｏ型）
出 身 地　：東京都　八王子市

私は東京の外れ八王子で生まれ育ちました。
八王子には、陣馬山、今話題の高尾山があり、小学校の遠足のコースでした。母方の実家にも、名もない小さな山が沢山在り、よく登って遊んでいました。

♥入会のきっかけ　公開バスハイクです。
友人から竜ヶ岳の事を聞いて、是非登ってみたいと思っていたところ、広報に山の会主催の竜ヶ岳登山の募集が載っていました。主人も会社の人達と登山を始めていたので、二人で申し込み参加させて頂きました。
その時は、入会などとても考えていませんでしたが、思っていた以上に楽しく、素晴らしい登山だったので、二人で入会しようと言うことになりました。

♥一年経った今
まだまだ参加山行も少なく、例会での皆さんの報告、計画を聞いても、“すごいなぁ”「私には無理」と思ってしまいます。
これからも無理をせず、皆さんと楽しく登山したいと思っていますが･･･
こんな会員でもいいのでしょうか･･･？　　よろしくお願いします。

～会員紹介～

氏　名　：大門　京子　（おおかど　きょうこ）平成 21 年入会
生年月日：昭和 28 年 6 月 30 日（かに座Ａ型）
出 身 地 ：島根県　出雲市

山の会に入る前は、主人と二人で写真と景色を楽しみながら自然にふれあい、ゆっくりと山登りをしていました。

そんな時、主人が亡くなり、一緒に山行に行かれるグループが有れば…と思った時、大木さんが「草加山の会」に入っている事を聞き、紹介して貰い門を叩きました。

2009 年、35 周年で“高尾山から太平洋まで”という企画の最初、石井（文）さんリーダーで高尾山へ行ったのが、おためし山行でした。

時々山に行ってはいましたが、厳しい山の事について何も分からない事ばかりですので、色々な事に何でも挑戦して、経験をつんで色々教えてもらい、勉強していきたいと思いますので、これからも宜しくご指導をお願いします。

氏　　名　：森　律子（もり　りつこ）　平成 23 年入会
生年月日：昭和 40 年 12 月 9 日（射手座 A 型）
生 身 地 ：大阪市　都島区

人生半分すごく頑張って生きてきたので、残りの半分は悔いのないように、自分の為に好きなことで一杯にしようと、「好きなことは？」自分の心に尋ねたところ、子供のころに母に連れられ登った山歩きはとても楽しかったことを思い出し、インターネットで居住地に近い「山岳会」を探し「草加山の会」と出会いました。

「運命の出会い」とはあるもので、こちらの会に入会させていただいてからは山だけではなく、大好きな温泉やお酒まで堪能させていただき又、初めての場所や始めての経験をいっぱいさせていただき、学生時代以上に「キラキラ」と輝いた日々を過ごしています。

夢はいっぱい膨らみ、1 年後 2 年後の自分にとてもワクワク出来るようになりました。これからもいっぱい色んな事にチャレンジして人生の宝物で心をいっぱいににしたいと思います。

～会員紹介～

氏　名　：牛山　信康　（うしやま　のぶやす）平成 23 年入会
生年月日：昭和 25 年 4 月 14 日（おひつじ座Ａ型）
出 身 地 ：埼玉県　草加市

“切込、刈込湖へ行きませんか”と杉山清美さんからお誘いをいただき同行いたしました。

私は 20 代に少々山に登っていましたが、結婚後はすっかり山行をやめてしまいましたが山の素晴らしさは忘れられず、いつかは再開したいと思っていました。子供も大きくなって少々気分的に余裕が出来始めた頃、タイミング良く杉山さんから声を掛けていただきました。

まずスポーツショップに行って道具を揃えました。
昔と違って靴が軽量化していたのに驚きました。
それからザック、ウエアと購入して遠足に行く前の子供のように嬉しくなってしまいました。

久しぶりに山に行ってバスハイクの一行に遅れてしまってはいけないと思い、道具慣らしを兼ねて近くの三毳山を登り降りして備えてきました。当日は天候も良く切込、刈込湖へ向かう奥日光の林道はとても清々しい気分でした。

木々の間を縫うように歩いていると美しい木漏れ日に出合ったり、鳥の声を聞いたり、また土を踏んで歩く感触がとても良い気分でした。大昔の人間は裸足で歩いたんだから、素足で歩いたらもっと大地を感じられるかな、などと取るに足らないことを思い描きながら無心に歩を進めていくのは最高の気分です。

高い山に登るのも素晴らしいですが、私は林道を歩むのもとても好きです。何故なのか、きっと頭が空っぽになれるからかもしれません。
これからも時間を見つけては皆様に同行させていただきたい思いです。

一方私は建築設計を生業としており日々の暮らしは目が廻るほど仕事が忙しく、思ったほど余暇の時間がありません。山行の案内にもそれほど参加できないかもしれませんが、時間を見つけては参加したい思いがいっぱいです。

会員からメールで山行報告と添付された楽しげな記録写真を拝見しては羨ましいと思いながら楽しんでいます。次は何処に行こうかプランニングするのも楽しい一時、これからも会員の皆様、ご一緒させていただいた時はどうぞ宜しくお願い致します。
最後に一言、刈込湖畔でいただいた味噌汁はとても美味しかったです。

～会員紹介～

氏　　名：管野　淳也（すがの　じゅんや）　平成 23 年入会
生年月日：昭和　48 年 7 月 22 日（かに座Ｂ型）
出 身 地 ：鹿児島県の徳之島

初めて上高地・白馬を訪れたのをきっかけに、山の風景にすっかり魅了され、単独行でポツポツと登っていました。鹿児島市内の転勤を挟んで草加市在住となり、草加山の会を知りました。一人では得難い経験や知識を少しでも身に着けたいと思っています。よろしくお願いします。

氏　名　：三浦　藤博　（みうら　ふじひろ）　平成 23 年入会
生年月日：昭和 35 年 10 月 26 日（さそり座ＡＢ型）
出 身 地 ：東京都　北区

2011 年 10 月に入会しました三浦藤博です。ファーストネームが、藤博（フジヒロ）とちょっと変わっているので、苗字みたいだとよく言われます。仕事関係以外では、「フジさん」とか「フジヒロさん」と、呼ばれることが多いです。

1960 年 10 月 26 日、東京都北区の西ヶ原で生まれ、現在、足立区に在住しています。

2004 年９月、義弟の山口裕史くんから「山に行きませんか。」と誘いを受け、小５と小３の子供を連れ“妙義山の石門巡り”に行ったのが最初の山です。それから１ヶ月１回位のペースで裕史くん夫婦と一緒に山に登り、子供たちが一緒に登らなくなった頃から、裕史くんと父・敏雄さんの３人で山に行くようになりました。

二人が山の会に入会してからは、度々ビジターとして参加。「てんとさいと」の山行報告で、名前の無い“他１名”でちょくちょく載っているのが私です。

昨年あたりから雪山に興味が出てきた私に、「雪山に行くなら山の会に入らないと駄目だよ。」と言われたのをきっかけに入会しました。

今は、テント泊の縦走にハマっています。日帰り登山に比べると充実感および達成感が違います。また、山行費用が格段に安いこと。そして、スシ詰め状態もなく他人の目を気にせずお酒が飲めること。体が悲鳴を上げるまでは、テント泊縦走を続けていき、最終目標は日本百名山完登（全部は無理かなあ～）です。これからは、経験豊富な方々とご一緒して、山の知識や技術を貪欲に習得し、さらに充実した山行をしていきたいと思っています。

～会員紹介～

氏　名　：鎌形　瑞枝　（かまがた　みずえ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 28 年 1 月 22 日（みずがめ座 O 型）
出 身 地 ：北海道　横浜育ち

昨年４月に入会した、鎌形瑞枝です。平均年齢が６０歳位と伺い、何とか皆さんと行動を共に出来るかなと、入会させていただきました。何回か例会に参加し、雪山へ出かけるわ、雪中テント山行、山スキー、岩登り、沢登りありで若い頃ならいざしらず、活動範囲の広さに驚いています。井の中のかわず大海を知らず気分です。５８の手習い？で出来るところから皆様にご迷惑にならないよう少しでも体験できれば幸いです。

先輩に誘われ、７月山開きの谷川岳に登って、
早４０年。場所も分からず長野の山へ行ってくると家を出た事を思い出しました。
夜の上野の喧騒、土合の駅での山の夏の寒さが蘇ってきました。
ハイキングではなく、本格登山は初めてで、７月に残雪を見て、触って、味わってテンションが上がりっぱなしでした。

冷たいレモン水は山にのめり込む、誘い水だったのではと思ってしまいます。
その後も長男１歳を連れて登ったり、北アルプス、南アルプス等の足慣らしに両手では足りない位通いました。

最近の谷川岳は一昨年の馬蹄形でロープウエイで上がり、２日がかりで元の駐車場に戻ることが出来ました。
１０００回、２０００回おじさんに会えるのも楽しみでした。

長男も最近山に行くようになり、孫を早々谷川岳に連れて行ったと聞き、山に連れ出していたことが間違ってはいなかった。
心身共にとても良い事とうれしくなりました。

肩の小屋が改装され、いつか泊まってみたいものです。
１年に数回、富士山が見えるとの事、大好きな富士山を思い出の多い谷川岳から見てみたいという目標があります。叶えられますように！！

昨年中止になった槍穂の縦走、ジャンダルム、岩トレも行ってみたいし、チョモランマ、縄文杉、ブルーポピーも再訪を考えています。

行ったことのない山、季節で違う山等、まだまだ引っ込んではいられないと、皆様に背中を押される感じがします。体を鍛えつつ、怪我も無く楽しい体験をたくさん作れたら良いですね。細く長くお付き合い頂きたく、これからも宜しくお願いいたします

～会員紹介～

氏　名　：加藤　紀久代　（かとう　きくよ）平成 23 年入会
生年月日：昭和 31 年 12 月 2 日（いて座Ｏ型）
出 身 地 ：埼玉県　松伏町

あの日、思い切って山本さんに電話してみて･･･、勇気をだして例会を見学してみて･･･本当によかったと思っています。

何十年ぶりかで本格的な登山をして充実感を味わったり、心から自然や仲間を愛する素晴らしい人々と出会ったりしたからです。

私は、学生の頃から山が好きで、大学の頃は千葉県の山岳会に所属していました。その会は、谷川岳周辺や越後の山が中心で、沢の地域研究に力を入れていました。夏でも震えが止まらない沢登りやフラフラになりながらの薮こぎ、雪山でのラッセル訓練など、華やかな北アルプスの縦走とは全く違う山登りをしていました。

私は、体力もなくいつもバテ気味でしたが、下山したときの充実感や達成感は他では味わえない最高のものだったし、大自然の雪も岩も森も好きでした。けれど、社会人になり仕事が忙しくなるとなかなか山行にも参加できず、結局、山岳会はやめてしまい、その後は友達との簡単な山歩き程度になっていました。

登りたい山は遠くから眺めるだけでした。特に雪を抱いた山は大好きなので、今年こそ登ってやる、今年こそ･･･とずっと思ってきました。

そして、ついに昨年、2 千メートル級の本格的な山にカムバックを果たしました。

「草加山の会」という新たな人々との出会いで、また、好きな山に登れるようになりました。入会してからの山行は、天候にも恵まれ、いつも満足感いっぱいの山行になっています。

8 月の北アルプス「燕岳」、9 月中央アルプス「木曽御岳」、10 月「黒姫」、11 月「葛老山」、12 月「北八天狗ヶ岳」、1 月「黒斑山」、2 月「谷川岳」「社山」とどれも、心から山のよさを味わえる山行で、増々山の魅力に惹きつけられているところです。

「山の会」の皆さん、いつも温かいお心遣いありがとうございます。

そして、ご指導ありがとうございます。

これからは、連れて行っていただくだけでなく、できることはもっと貢献しなければと思っています。仕事の関係上、行けないことも多いのですが、可能な限り、例会にも山行にも参加して、「山の会」の一員として皆さんに認めていただけるよう、努力してまいりたいと思います。

今後共、どうぞよろしくお願いいたします。　　がんばります！！

～会員紹介～

氏　名　：磯川　剛　（いそかわ　つよし）平成 22 年入会
生年月日：昭和 50 年 3 月 6 日（うお座 O 型）
出 身 地 ：北海道　札幌市

【ちょっと八ヶ岳にでも】

「今週末、ちょっと八ヶ岳にでも行かない？」茨城で働いていた時、そんな職場の上司の一言が私と山との出会いのきっかけになった。今から１０年前のことである。八ヶ岳？何県だっけかな？山のことは全くわからなかったが、時間と体力があり余っていた時期なのですぐに「行きます。」と返事をした。

さて、何を持って行ったらいいのかな？山靴も持っていなく、山でどんなものを着るのか全然わからない。その上司は「運動靴で大丈夫。ちょっと寒いかもしれないからジャンパーを持って行って。カッパはあるよね？ズボンはジーパンでは歩きづらいから、チノパンみたいのがあればいいよ。」とのこと。自分は遠足の延長のような気分で週末を待った。

金曜の夕方、仕事が終わってからの出発となった。土曜日の朝一から登りはじめるとのことで、金曜の夜、松原湖近くにテント張って小宴会の後、睡眠。さて次の日、本沢入り口から登りはじめた。のんびり歩いていると本沢温泉小屋が見えてきた。ここまでは緩やかな道が続いたので、自分の中で、意外と楽かも。との思いが出てきたのも束の間、そこから登りがきつくなってきたが、その上司のペースは変わらない。その上司は５０歳を超えている。その当時２０代の自分は「ちょっとペースを落としてもらっていいですか？」とは言えなかった。「この植物は・・・このキノコは・・・」上司の話に自分は呼吸を整えながら「すごいですねー。きれいですねー。」と子供の作文のような返事をするのがやっとだった。心臓の尋常でない鼓動の速さを隠して不自然な笑顔を作りながら登った。

そんなこんなでなんとか硫黄岳の頂上に着いた。雲一つなく、すばらしい景色が周りに広がっていた。疲れが一気に吹っ飛んだ、気がした。上司が「あれが～山。あれが～山。」と説明してくれるが自分にはさっぱりわからない。その説明の一つに「あれが北アルプスだよ。尖ったのが槍ヶ岳で、その隣に凹んだところがあるでしょ？あれが大キレットと言って大変なんだよ。来年行こう。はははは・・」とあっさり言った。自分はなんとなく「すごいですねー、行きたいですねー。はははは・・」と答えておいた。（翌夏、北アルプスに立つことになる。）

さて、昼飯を食べ終わり、まだ１２時を過ぎたくらいである。今日は硫黄小屋に泊まると聞いていたので、これから宴会かなと思っていると、「じゃあ、今から赤岳に行くよ。」とのこと。赤岳は近くに見えているので、簡単に往復できるものと思っていたら、硫黄小屋に戻ってきたのが４時を過ぎた。疲れきったが、不思議な充実感があった。小屋の中では自分たちで持ってきた多量の肉を焼き、小屋の夕食を食べている他の客の注目を浴びたが、またこの話は別の機会に・・・。

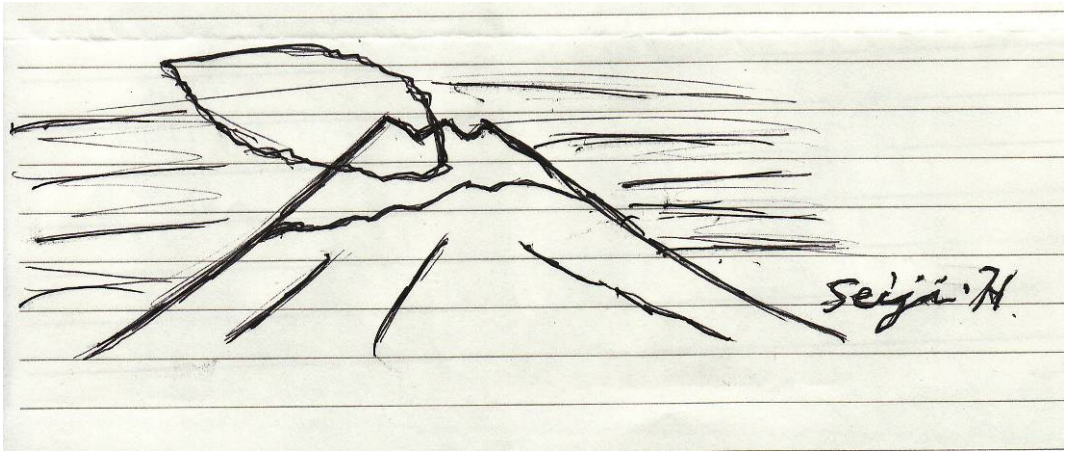
翌日の下山時は、本沢の露天風呂に貸し切りで入り疲れを癒やし、自分の初登山が終了

した。
　この後、この上司にいろいろな山に連れて行ってもらった。自分一人でふらっと歩くことも多くなった。
（埼玉に引っ越した今でもこの上司とは時間が合えば､年に一度､一緒に山へ行っている。）
　せっかく草加山の会に入会させていただいたのに､このところ仕事や他の趣味が忙しく､山に行く回数が減っている。今年は、山での新しい楽しみ方・視点のようなものをを発見できるような登山ができることを目標にがんばりたいと思う。
　山の会の皆様には今後も多くの面でお世話になると思います。よろしくお願いします。

高川山　（正月山行）

日　程　：２０１２年１月４日（水）晴
参加者：L 鈴木（里）、千葉、黒澤、上原、新庄、大門、尾崎、張替
「歩程」
　初狩 **8：30**―登山口 **9：00**―男坂、女坂分岐 **9：20**－高川山 **10：05～10：50**―
　　むすび山 **13：30**―大月駅 **14：12**
「山の会運営会便り」のハガキが送付された時に「正月山行」は是非行きたいと思っていたので、早速リーダーの里子さんに電話し了解を得て参加しました。
私も高川山には何度か登ってますが、今回のむすび山コースは初めてでした。
富士山は雲に隠れていましたが｢男｣私一人のせいか、昼食時など楽しく過ごさせて頂きました。皆様有難うございました。
静かにゆっくり、陽だまり山行を多いに感じられた山行でした。
打ち上げは新越谷｢焼き鳥屋｣で行い楽しく過ごしました。
皆様本当にありがとうございました。

。



三滝＆熊鷹山（1169ｍ）

★2011 年 12 月 8 日　木曜日　　記　新庄　八重
★L 新庄、小宮、山本、下川、千葉、大畑、小林(陽)
★松原団地 5:30⇒東北・北関東佐野田沼 IC・R201⇒西沢 P7：30/7：50…白ハゲ口 8：30/8：45…三滝 9：15/9：20…展望台 9：30…滝上分岐 9：35…休憩…十二山・熊鷹山分岐 10：50…熊鷹山 11：10/11：20…西沢 P13：00

空模様が心配なため山本さんの携帯と羽生 PA での最新の天気予報を照らし合わせた結果、何とか決行出来そうな感触を得て再出発する。

田沼郊外の蓬山ビレッジを過ぎると徐々に人家もなくなり、西沢 P に着いた時には寒々とした空気が漂っていた。所々に滝を見ながら車道を進むと熊穴橋、ここから細い林道に入るが落石や陥没が随所にみられ時々上を確認しながら歩く。白ハゲ口から山道になり朽ちかけた橋を何度も渡り三滝への沢コースに入る。源流部に近く大岩が深く切れた谷間を行くと行き止まりとなり、高台に折れて険しい道をジグザグに登ったり下ったりを繰り返えす。途中は倒木や踏み跡が消えた所もあったが、目印を確認しながら三滝に向かった。

滝が三段に流れ落ちるのでその名が付いた三滝も滝壺に行ってみたら、下二段しか見えず迫力に欠けている。45ｍの全容を拝むには展望台に行かねばなるまいと、三滝を離れてかなり高い急斜面を巻くように進むので滑落には気をつける。下を覗いて見ると今度は滝の上段が見えるだけ。結局、惜しいことにこの滝は二つに分断された姿しか見ることができず、その大きさを感じられなかった。

展望台から更に上へ行くとやっと険しい道から離れ、炭焼き釜らしい穴の所から少し登ると熊鷹山方面となり細く急な尾根道となる。30 分位歩いて下降気味になると今まで歩いてきた尾根が一旦なくなったような広い所に出る。小休止して今度は右前方のやや広い尾根に向かって歩き出す。辺りを見回すとガスが段々下りてきている。小ピークを越えこのまま尾根を外さないように行けば、十二山・熊鷹山の稜線に続くはず。三滝の川コースに入ってからこれまで、随分アップダウンの多い変化に富んだ道のりも、やっと分岐に出て先が見えてきた。急登から解放された稜線には背丈の低い笹、唐松、ツツジが茂る気持のよい道が熊鷹山まで続いている。

山頂に建つ櫓からは 360 度の眺望が得られ、5 月にもなると櫓の下は満開のツツジの花で埋まってしまう。残念だが完全にガスに覆われてしまったので早々に頂上を引き上げ西沢方面に向う。途中から分かれる沢コースと白ハゲ尾根に踏み込まないように気をつけながら下りて行くと、明るい尾根も最後は杉の植林に変わり林

熊鷹山に向かって歩く稜線

熊鷹山

新ストーブのある川沿いの蕎麦屋

花の山旅＆忘年山行
冬桜を愛でる「桜山」

■平成 23 年 12 月 11 日　日曜日　(貸切バス 28 名乗り)　　記　千葉　かつ子
■松原 5:50⇒関越⇒御蔵御子神社 P8：00…いっぷく平 8：40…弁天山 9：10…桜山 P10：55…桜山 13：10…コミュニティーセンター14:00…白寿の湯 14：15⇒松原 17：00
■L 園木、森、浅井(祐)、鎌形、下川、尾崎、黒澤、和田、西方、山本、中島、杉山、阿部、松浦、松田、小林(い)、小林(真)、関口(美)、八並、畑野、浅井(昭)、箱井、上原、小野寺、新庄、千葉

御蔵御子神社 P でバスを降りて 4 班に分かれてのスタートです。杉林の中を 40 分程大汗を掻きいっぷく平に着きました。弁天山からの展望はお天気に恵まれ青空の下、小鹿野町や皆野町？方面が一望できました。春の桜やツツジの頃は山面がオレンジ色に染まり素晴らしい景色になるでしょう、その頃に又来たいなぁ～！

尾根歩きは空っ風が強くて寒かったり暑かったりとコロコロと変わり、カタクリの丘は昨日降った雪が一面を白く覆って、冬だなぁ～と身の引き締まる思いでした。

雑木林は厚い落葉が積もり暖かい陽だまりで浅井さんが山梨(やまなし)を見つけ、私も初めて手に取ってみました。本には大変美味しいと書いてありましたが、食べたらそれ程旨いものではありませんでしたが、皆さんそれぞれ味見をしたり楽しい一時を過ごしている様でした。

桜山公園

桜山公園歩道は広く歩き易くリンゴ園まで続いていました。車道に出ると直ぐにリンゴ直売所があり真っ赤なリンゴが実っていました。試食をしたのでただ通過する訳にもいかず食後のデザート用に 1 袋を買ったのは正解、皆で美味しく頂きました。

桜山公園内ではガスが使えないため、公園下に丁度よい具合に広い広場があったので、ここで忘年会となりました。今日一番の出し物、園木流「つみれ汁」パーティの始まりです。野菜を切りつみれ汁を作る人、お汁粉を作る人に分かれ作業開始、持ち寄りの一品を並べれば後はつみれ汁の出来上がりを待つだけです。忘年山行に付き物のお酒もビール、ワイン、日本酒と豪華です。つみれ汁は沢山の生姜と長葱、隠し味に赤味噌が入ってとても美味しく私は 2 杯も頂いてしまいました。さて、重くなった身体に気合を入れてもう一登りです。桜山公園には 7 千本もの冬桜の木が植えられておりますが、今回は時期が少し遅く散っている所もありました。冬桜は控えめで淋しそう、でも青空に小振りな花弁が輝いていました。

「花見忘年山行」も美味しいつみれ汁、思いもかけなかった冬桜、お酒も入り仲間と楽しく過ごす姿は皆さん満足そうでよかった、よかった…。一年を〆るには丁度よい「山」で下山後は白寿の湯で身も心も綺麗になって、今年一年を締めくくることが出来ました。来年も宜しくね！

赤雪山（620.6m）～仙人ヶ岳（662.9m）

記：樋口　淳一

■日程　　：2011/12/22(木)
■天気　　：曇り
■メンバー：L.新庄、千葉、八並、山本、樋口
■コース　：松原団地 5:30＝7:40 松田川ダム 7:50～展望台駐車場～8:50 赤雪山～11:00 仙人ヶ岳～熊の分岐～561m 知の岳～尾根上の分岐～林道～松田川ダム

7:50 に身支度を終え出発。展望台駐車場までは車道を歩き案内図の所に「赤雪山 1.7k」の道標があり登山道となる。(標高約 170m)
直ぐに「せせらぎ滝」を通過し、いきなり急登が始まる。植林されたヒノキの中の急坂の階段、そしてジグザグの登りを経て尾根に出た。「まつだ湖 1.0k/赤雪山 0.7k」の道標の所で一息入れ岩が露出した急坂を登ると標高 620.6m の赤雪山山頂に到着。ベンチと立派な東屋がある。

90 度右に向きを変え尾根歩きが始まる。
尾根道にはツツジが生い茂っておりツツジのシーズンにも訪れたいと思った。しばらくして「原仁田ノ頭」のピークに着く。
それから 25 分で石祠-のあるピークを通過し何度もアップダウンを繰り返し標高 540m「仙人ヶ岳 1.3k/赤雪山 2.9k」の道標通過。次に「松田川ダム 20 分」下降点看板を通過、岩場の急登で仙人ヶ岳の東峰に出る。
さらに 5 分程進むと仙人ヶ岳山頂に至る。

写真を写して休憩に適していた東峰に戻り、昼食を摂る。
仙人ヶ岳から熊の分岐の間は黒こげの木々が沢山あった。3 年前に来た時には無かったので、ネットで調べたら今年の 7 月に山火事があったようだ。痛々しいかぎりだ。
561m 知の岳から不明瞭な藪道とものすごい急降下で休憩できる広場に降り着く。
一息入れて平坦な作業道を進むと沢を沿いの堰堤を越えキャンプ場に出た。
松田川ダム沿いの車道を歩き無事駐車地点に戻った。
本日、例会があるので早々に帰路に着く。
足利の標高 1 位と 2 位の二山を馬蹄形縦走できて充実した山行となりました。
参加者の皆様、ありがとうございました。

天子山塊縦走 ダイアモンド富士で今年を締め

記:山口裕史

◆日　時　:2011年12月30日
◆メンバー:L 山口(裕)、山口(敏)、三浦　(敬称略)
◆コ ー ス :10 時間 30 分
4:50 本栖湖駐車場 5:10→石仏 6:20～7:05 竜ヶ岳(朝食)7:45 ダイアモンド富士 8:05～8:30 端足峠 8:45→10:00 雨ヶ岳 10:15～10:55 タカデッキ→11:40 大見岳(昼食休憩)12:35～12:45 毛無山 12:50→五合目 14:00→登山道入口 15:00→麓山の家 15:10→朝霧高原バス停 15:40

先月の笊ヶ岳でひいた風邪がようやく治ったと思ったら、12 月中旬から仕事が忙しくせっかく天気が良かった土日を棒に振ってしまいましたが、今年最後の締めは、やはり富士が見える場所というのは外せません。
一昨年ダイアモンド富士を見に竜ヶ岳に登った時に近くに見えた雨ヶ岳。そしてその先にある二百名山の毛無山。とっても素敵な陵線歩きが出来そうなので今回はダイアモンド富士とからめて計画してみました。

駐車場に到着し満天の星空の中外に出ると、思いのほか寒くないので驚く。2 回目のダイアモンド富士で時間も分かっているので今回は急ぐこともなくヘッデンをつけて歩き始める。予定通り山頂に到着、時間通りに日の出が始まり、ダイアモンド富士を拝めた。今年は天候不順でずいぶんと計画を断念したが、ほんの数分間の至福の一時で今年はいい山行だったと思え、来年はもっと楽しい登山が出来ることを期待できた。

ここからが長い陵線歩きとなるが、無雪期とは言え雨ヶ岳～毛無山は雪道でアイゼンの跡も見られたが、凍結していないのでそのまま歩ける。1 月～2 月は楽しい雪道歩きが出来そうだ。
歩いてみて、この稜線は展望が良い箇所が何箇所もあり、思いのほか素晴らしいルートであった。富士山の展望は一級品で人も少ない。タカデッキからは南アの稜線が大きく一望できる。下山で使った毛無山の登山道は直線的で結構岩っぽく、ピストンするのはうんざりしそう。せっかく登るなら時間は長いが陵線歩きこそ魅力のある山だと思う。私の好きな富士山を終日堪能できた陵線に感謝。今年は義兄の三浦さんも草加山の会にいよいよ入会し大いに活躍してくれそうで、来年はますます楽しい登山ができそうです。

クリスマス山行　-雪の北八ヶ岳-

文責　加藤紀久代

◆山 行 日　平成 23 年 12 月 24 日・25 日
◆メンバー　石井・浅井昭・浅井祐・小野寺・松田・山口敏・森・加藤
◆山行場所　北八ヶ岳　天狗岳周辺
◆コース
12 月 24 日６：２３草加駅……７：０８錦糸町……９：５１茅野……１０：４０渋の湯……
１２：１０唐沢分岐……１４：００黒百合ヒュッテ……散策…… 黒百合ヒュッテ泊
12 月 25 日7：25 ヒュッテ出発……８：５５天狗岳……１０：００中山峠……１１：３０……
１２：３０高見石……１４：１５渋の湯……１７：２８茅野駅……１９：１２立川

７：０８錦糸町発の特急あずさ号に乗り、雪の八ヶ岳を目指した。今回、森・加藤は雪山初デビューということもあり、先輩たちは「あずさ」の車窓から、遠く雪をいだいた八ヶ岳の上にかかる雲の様子をしきりと心配してくださった。茅野に近づくにつれ、白い南アルプスの山々、甲斐駒ケ岳の雄姿が、メンバーの心を高揚させた。 茅野駅から、石井リーダーが事前にチャーターしてくれた大型バスに乗り、渋の湯に到着。先ほどまで弱々しいながら見えていた太陽はすっかり姿をかくし、そこはもう厳しい寒さの真冬の世界だった。スパッツをつけ、ピッケルを手に出発した。

森さんは初めてのピッケル使用、加藤は 30 年ぶりにピッケルを手にし、雪山への期待が高まった。真っ白な登山道はよく踏み固められており、歩きやすい。また、3 連休の中日でもあり、登山者も多い。下山してくるパーティーは若者が多かった。石井リーダーのペース配分がうまく、疲れは感じない。唐沢分岐で小休止するが、行動を停止すると寒くてたまらない。しかし、真っ白な木々に覆われた山の美しさは格別である。雪山の美しさに感動しながら、あっという間に黒百合ヒュッテに到着した。小屋に荷物をおいて、アイゼンをつけての歩行練習を行った。中山峠までいくが、風が強く、30 分程度で小屋に戻った。気温-15 度

今日はクリスマスイブ。7 人でホワイトクリスマスパーティー。質・量共に豊富なお酒・豪華なつまみが並び、夕食も気にせず、よく飲み、よく食べた。松田会長がわざわざ運んできた、ロールケーキはクリスマス気分を盛り上げてくれた。ヒュッテの夕食はチキンの骨付き 1 本とケ

雪山に大満足

ーキつきだった。とても楽しいイブの夜は過ぎた。 午前 5 時３０分起床、6 時朝食。出かけようと靴をもつと何と！「黒百合サンタ」からのプレゼントが！！！

幸せな小野寺さんはみんなよりたくさんプレゼントをもらった。今日は天狗岳登頂グループと高見石小屋待機グループに分かれて行動。きょうも太陽はみえないが白い世界は実に美しい。天狗岳グループは 7 時 25 分に小屋を出発。登頂を目指す大人数のパーティーも多い。樹林帯をすぎると、風はますます強く、とにかく寒い！休憩したいという気は全く起こらず、ひたすら天狗のピークを目指す。そして、小屋から 1 時間 30 分で頂上に到着した。しかし、登頂の喜びどころではなく、頂上からの景色をながめる余裕はなく、石井リーダーが 10 秒ほどで写真撮影したあとすぐ下山に入った。予想では-20 度はすぎていたのではないかと思われる。八ヶ岳がこんなに寒いとは知らなかった。下山しながら登頂の喜びをかみしめた。

高見石小屋で小野寺・浅井グループと合流。小屋で温かいコーヒーで昼食をとった後、全員で高見石に登る。
その後、雪山の素晴らしさを味わいながらゆっくり下山。賽の河原がやや歩きにくかったが、他は夏道より歩きやすく、高度が下がってくるのが惜しい気さえしていた。午後 2 時 15 分渋の湯に到着。タクシーを呼んで茅野駅まで行く。

そして、駅前でお疲れ様会を行う。電車の時間を気にしながらもゆっくり、飲んで、食べて 2 日間の山行を振り返った。帰りはスーパーあずさで予想以上に早く立川に到着した。私は、本当に久しぶりの雪山でした。ここ数十年、いつも遠くから雪山の姿を眺め、行きたい気持ちを募らせてきました。ところが今年は、クリスマスに、新しい仲間たち共に、その場にいることが夢のようでした。本当に素晴らしいホワイトクリスマスになりました。石井リーダー・浅井サブリーダー初め、皆様、ご指導いろいろありがとうございました。

頂上へ出発

浜石岳・薩埵峠・東海道・みかん

（誰でも登れる花の山旅９回目）

記：大門　京子

山 行 日：平成 24 年 1 月 7 日（土）晴れ
メンバー：Ｌ園木、阿部、下川、小宮、山口と、千葉、八並、鈴木み、関口み、大門
【コース】
由比駅（タクシー）＝青少年野外センター**8：55**＝浜石岳 **10：30～11：20**＝薩埵峠
14：15～14：30＝由比駅 **15：10**＝さくら食堂 **15：50**＝（タクシー）＝蒲原駅

花の山旅の最初に計画表を見た時から、この日は絶対に行きたいと思っていた所です。
以前一度行った時、薩埵峠と桜エビのかき揚げがとても印象に残っていたからです。

青春 18 キップで由比駅まで行き、駅からタクシーで頂上近くの電波塔が見えるすぐ傍まで行ったので、降りて歩いてすぐでした。
浜石岳頂上は 707m と低山ながら、遠くアルプスも臨め、海も近く、富士山もすぐそこにみえ絶景でした。
そこから薩埵峠までは、台風の通り過ぎた痕がすごくて、倒木が多く、またいだり、くぐったり、とても歩きづらく大変でした。
峠の展望からは、広重の絵と同じ風景（高速がなければ）が見られました。そこから、由比のみかん畑のある道を通り、旧街道を通り抜け、駅まで長い道のりでした。
しかし、桜エビを食べる迄には更に一時間位歩きました。
歩いた分だけ、プラス〆で桜エビもとても美味しかった。
お腹一杯食べて、お土産も買って帰りました。疲れた～～

浜石岳山頂
バックに雲を抱いた富士山

薩埵峠から景

花嫁街道

記：八並　絹代

＊　日　程　：２０１２年１月８日（日）

＊　メンバー：Ｌ上原、前田、鈴木廣、池本、黒澤、小林陽子、鈴木里子、大木、
杉山、新庄、中島、畑野、新島、渋谷、八並

＊コース：南越谷発 5:55⇒和田浦駅 9:30----花嫁街道入口 10:00---第一展望台 10:30---経文石 11:00 じがい水 11:15---駒返しの先で昼食 11:30～12:00---見晴らし台 12:17--- 烏場山 12:25----旧烏場展望台 12:50---見晴台 13:15—金毘羅山 13:30---花園広場 13:40----和田浦駅 14:30～14:38 発の電車で帰路⇒南越谷着 18:09

千葉の山は一度も出かけたことがなく、下調べもしないで、暖かい房総のお花畑を眺めながらの街道歩きだろうと思って参加した。予想に反し、なだらかな山道の周遊コースのハイキングだった。

花嫁街道の由来は山間集落と海辺の集落との交流の道、古くは塩汲みの道から生活物資の往来、かつては花嫁行列もここを通って嫁いで行ったことから近年ハイキングコースとして整備され呼ばれるようになったそうだ。

和田浦駅から 30 分余り車道を歩き、いよいよ花嫁街道入口へ到着しここから山道となった。マテバシイの林のきれいなこと。落葉樹はなく照葉樹林帯を歩き房総の山らしさを味わった。標高 200 メートルほどの山を登ったり下ったりしながら、途中展望台や見晴台で美しい照葉樹林の山並みや太平洋の海を眺めながら 2 時間余り歩き、今日の最高峰、烏場山（265M）に到着。どこから眺めても同じような景色に思えたが山頂から海を眺めるのも格別だ。旧烏場展望台からは花婿コースと言われ、いくらか急な下り坂となった。金毘羅山を下った所に落差 15Mの黒滝、向西坊入定窟（赤穂浪士の一人片岡源五右衛門の家臣で出家してこの地で入定した。）があり観光スポットとして整備されていた。

花園広場へと続いておりキャンプ場､公園として夏場､利用できるよう設備がされていた。

花嫁、花婿街道は谷筋をはさんでぐるりと尾根を一廻り 13・５キロの程よい歩程で房総の山の良さが満喫でき楽しい一日でした。ありがとうございました。

生瀬富士と土岳

記　鏑木　国夫

山行日：２０１２年１月１７~１８日

メンバー：（L）新庄・小宮・山本・千葉・大畑・小林（よ）・鈴木（さ）・小野寺・下川
阿部・鏑木

国民宿舎゛鵜の岬荘゛が予約可能なので軽い山歩きをしてアンコウ鍋はいかがですか、というお誘いをいただき、ありがたく参加しました。以下はそのささやかな記録です。

急登あり、岩ありで、やはり草加山の会らしい山行であったが、日和に恵まれ暖かい晴天で雪はまったくなかった。

【１７日】

▲５：３０＝松原団地を車２台で出発

▲８：３５＝滝本町営駐車場着（トイレ完備、無料）

▲８：５０＝生瀬富士に向け出発

▲１０：００＝生瀬富士山頂着

ほとんど平らな所がなくそれも急登であった。後ろからゆっくりの声があり助かる。頂上近くは岩場で手足をふるに使う。見晴らしはすこぶる良い。

風は冷たく冬山であることを思い出させる。４０６Ｍの山なのだが、面白いものだ、変化があるからか。日光、

那須塩原の山まで見通せるのに筑波山がわからない。

▲１０：５０＝立神山着

１０:２０ごろ山頂を出発したと思う。急坂を木やロープの助けをかりて下りていく。ここからは登ったり降りたりが最後までつずく。陽だまり山行である。休むかね…という言葉が気楽に出ている、時間に余裕があるということは、いいな～。

▲１１：５０＝滝見展望台着

木につかまって袋田の滝を見下ろす。なるほどなかなかのものである。多少水も流れているがほとんど凍りついている。観瀑施設（有料３００円）も見える。大声で呼ぶが反応はなかった。

▲１２：１５＝渡渉成功

観瀑台から尾根どうしに登下降を繰り返しつつ、滝の上流に向けて降りていく。橋がないから渡るしかないが、増水で渡れず、上流まで行ったとネットの書き込みがあったそうで、心配していたが着いてみたら水は少なく、すいすいと渡ってしまつた。

渡った所が月居山コースの入り口なのだが、行けたら生瀬滝

を経由して行くことになった。というのは、地震による崩落で通行不可と掲示されていたからである。

対岸の観瀑施設の近くまで行けたのだが、その先はなかった。引き返す事となる。
しかし生瀬滝は近くで見ることができた。こちらは全面結氷しており、まことに見事であった。アルバイトをしたお陰で、リーダーに感謝した。先ほどみた袋田の滝よりはるかに素晴らしかった。

▲１２：３５ごろ＝再び月居山に向けて出発

きれいなハイキングコースになっている。登り口は坂道であるがしばらくすると延々と階段になる。ふぞろいな階段で歩きやすくはない。
頂上に観音堂があり説明文によると佐竹氏の支城もあったが秋田へ移るおりに廃城になったそうな。思いもしないつながりにびっくり。
下山路も一部崩落しているので大きく迂回した。

▲１４：００＝下山　本日の山行終了。
あらためて観瀑施設から滝をみる。(４名のみ)
▲　１６：００＝鵜の岬荘着。温泉とビール。

【１８日】　▲８：００＝宿舎発

６：００起床～７：００食事～８：００出発とゆったりである。食堂へ行く途中で朝日が昇る。真丸な赤い太陽が水平線をいく、大きい。空と海がきらめいている。ひさしぶりである。

▲８：３５＝小滝沢登山口（土岳登山口）着
▲８：４５＝登山口発　▲９：５０＝土岳着

出発前にリーダーが地元の方と話をしていた、どうも帰り道のことらしい。
昨日よりはゆるやかだが、やはりこのへんの山は急登や岩はあるらしい。コースタイムは１時間位であるが、５９９Ｍで昨日より２００Ｍほど高い。
衣服調整をしながら登っていくと、やがて傾斜がゆるやかになりスズタケの向こうに山頂がのぞく。なだらかな丘状で一面の草でおおわれ、昼寝がいくらでも出来そうである。ベンチあり展望台ありとよく手入れされている。さんさんごご休憩して下山。

▲１０：２０＝土岳発

広い土岳山頂と展望台

１００Ｍほど戻り赤テープ箇所から脇道に入る。朝リーダーが確認していたのはこのことであろう。ヤブではないがコース上の道でもない。
山を歩いているという感じのとてもいい道でやわらかい。踏跡もしっかりしていて地図もコンパスもいらない。ひさしぶりな感じで楽しい。
沢を渡りかえすようになると、ふもとは近い。

▲１１：４０＝　小滝沢登山口着

今回の山行は無事終了です。楽しい時間でした、ありがとうございました。２日間とも暖かくよく晴れていたしとてもラーキーでした。途中食事をしながらの帰路となる。

11月～1月ロッククライミング及び講習

記：長田　一樹

◆11月27日　上尾総合スポーツセンター市　岳連レスキュー講習
長田　沼田　他

県警山岳警備隊飯田さん講演　机上講習　搬送方法講習　実際に背負っての坂道の上り下りを体験する。背負っての移動は、かなり無理があります。

◆12月4日　西上州　星穴岳（表妙義の隣）　長田　他

中ノ岳神社→西岳→星穴岳→射抜き穴→おむすび穴
途中懸垂下降４回、空中懸垂、40m懸垂有り
＊登山禁止看板有り、自己責任にての登山でした懸垂地点を間違えると大変です。

◆12月11日　丹沢　水無川水系　源次郎沢　長田　他

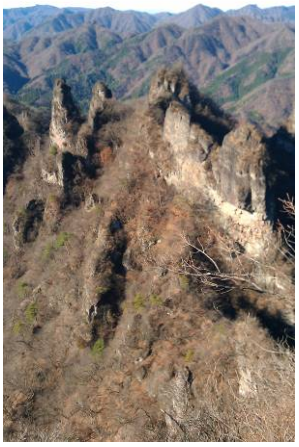
アイゼントレーニング：冬装備での沢登り、12本爪での滝や岩場は思っていたより歩き易かったですが、翌日の筋肉痛は凄かったです。

◆12月25日　秩父　双子山中央稜７ピッチ　長田　他

初の本格的マルチピッチクライミングでした。小雪が舞う氷点下の中でのクライミングで手足の感覚も無くなり頂上に着いた時は暗くなっていてヘッドライトを点けての下山でした、怖くてどうしようも無かったですが終わった後は楽しかった。

◆1月3日　古賀志山マラ岩　長田　他

フリークライミング5.8リード　マスターオンサイト　5.9リード　テンション連発で3回落ちました。どうしても登れず5回目のチャレンジにて、ようやく登る。動きの大切さ、手足の対角線上の使い方、スメアを復習しないといけない。5.10ｃトップロープ、登れる気がしない動きが解っていても体が付いて来ない股関節の硬さと指と腕の筋力をどうにかしたいジムから遠ざかっているのが災いしている練習しないと。



宝登山　（497.1m）

山行日：平成 24 年 2 月 5 日　　記：大畑　英子
山行者：L 大畑、畑野、上原、園木、新庄

【コース】

草加駅:**6：13**⇒羽生 **7：03**～**7：12**⇒（秩父鉄道）野上駅 **8：24**
林道本山根線 **10：35**･･･宝登山裏参道 **10：55**･･･宝登山 **11：15**（ロウバイ見学）･･･
宝登山神社 **12：30**･･･長瀞駅 **14：40**･･･羽生 **16：06**･･･久喜 **16：26**･･･新越谷 **16：53**

野上駅に到着し早速、駅の方に道順を訊く有様（地図を持っていながら）何とも頼りないリーダーです。

駅員の横柄な言動にショボン･･･　気をとりなおし、迷わず登り口まで辿り着きました。

風も無く穏やかな山行日和でした。途中凍っているところもありましたが装備の必要も無く歩くことが出来まし頂上への二百段の階段が一番の難所？でした。頂上に着くとローバイは少ししか咲いてませんでしたが、大勢の人で賑わっておりました。

天気が良いので皆さん花よりハイキングを楽しんでいたかも･･･下山し、宝登山神社では園木さんが朱印帳に記入していただき、満足そうな笑顔でした。
長瀞駅近くのお店で、おそばをいただき（お酒もチョッピリ）、岩畳まで散歩しました。荒川の対岸には、ツララも何ヶ所か見ることが出来ました。

今回は初めてのリーダー役でしたが、リーダーとは名ばかりで計画書作成から山行まで皆様に支えられて何とか実行できました。参加していただいた皆様に感謝です。ありがとうございました。

大　山　（1252m）

（神奈川県伊勢原市）　　記：山﨑 正夫

【日 程】2012(平成 24).01.25(水)　　【登山標高差】＝【累積高度】＝942m
【天 候】晴天　　【ﾒﾝﾊﾞｰ】L.山﨑、下川
【コース】5:40 草加駅→5:49 北千住駅 5:56→6:31 代々木上原駅 6:33→7:24 伊勢原駅 7:40→8:10 大山ｹｰﾌﾞﾙ駅 8:30～女坂～8:50 大山寺～9:40 阿夫利神社下社～11:55 大山山頂 12:20～13:50 阿夫利神社下社 13:55 ～男坂～14:45 大山ｹｰﾌﾞﾙ駅 14:54→伊勢原駅→新宿駅→新大久保駅→草加駅
【経費】草加-伊勢原＝1,290 円、ﾊﾞｽ＝300 円×2=600 円、伊勢原-新大久保＝1,250 円、新大久保-草加＝530 円 合計 3,670 円

膝痛の為、ドクターストップで２ヶ月間山行中止。１月２８日に雲竜渓谷参加し山行を再開する予定。万が一にも同行の皆さんに迷惑を掛けてはいけないので、足ならし山行を計画。下川さんが同行してくれることになる。当初、大平山・晃石山・岩舟山縦走を予定していたが、２３日夜半に雪が降る。
折角雪が降ったのだから、雪を楽しもうと、急遽大山に行くことにする。ネットで、時刻表をチェック。草加駅 5:40 出発。順調に伊勢原駅からバスで大山ケーブル駅に到着。

ここで、1 月１８日からケーブルの車両故障で期限未定の運休中と知る。足慣らしのつもりで来たのに、歩程が長くなる。道理でお客が少ない訳だ。　下川さんが「膝の調子を見ながら行けるところまで行こう」と、優しく言ってくれる。茶店は通常どおり早くから開いているが、これではあがったりだと同情する。取りあえず、女坂を歩くことにする。凍り付いた階段が続く。途中、急な階段を登ると、ケーブルの途中駅でもある大山寺に到着。大山寺を過ぎると相模平野と湾が見えてくる。そうこうする内、阿夫利神社下社に到着。

いつもなら、観光客で賑やかな境内も、今日はここで引き返し三浦半島の旅館で総会を開くという横須賀山の会の 10 数人の登山客のみ。
展望は良い。江ノ島、初島、大島、三浦半島、天城山も見える。社殿の地下の銘水や守護神和合神象を見学後、西方の鳥居を潜り、急な階段を登り、登山道となる。農業信仰の山らしく「豊作をたたへ大山仰ぎけり伊代次」の大きな碑が現れる。

２丁目、３丁目と標石が次々と出てくる。白山神社があり、大山観光青年専業者研究会の掲示によると大山寺開山(752 年)より前に既に建立されていたらしい。昨年の台風の中の白山行を想う。トレースがある蓑毛峠からの道と合流。更に進むと、富士山が見えてくる。頂上に雲がかかるも上々の展望。やがて、これもトレースのあるヤビツ峠からの道と合流。さすがに積雪の多くなり、２７丁目の鳥居を経て、２８丁目の山頂境内入口に着く。それぞれの峠からの客が５グループ。山頂で、昼食を摂る。

若い男二人が空身、運動靴で上がってくる。下の茶店で、その格好では登れないと言われ、発奮し登ってきたという。帰りはアイゼンを付けて下る。先ほどの若い二人は滑りながら我々を追い抜いて行く。鹿２頭と遭遇。慣れていて全く逃げず悠々と餌を探している。途中アイゼンをはずし、下社に到着。帰りは男坂を下る。バス停に着くと、程なくバスが来る。

下川さんから横浜中華街に行きたいと希望が出る。しかし、伊勢原からでは新宿に行くのと同じ位時間が掛かってしまうので、別の機会に譲り、韓流ブームの新大久保に行くことにする。小田急終点新宿まで行き、新大久保に向かう。日本人女性で賑わっている韓国食材スーパー２軒を回り、やはり女性客で賑わう店を探し食事をする。珍しい韓国料理をノーアルコールで食す。17:30 迄は叔母様が多く、18;00 頃からは勤め帰りの若い女性が多くなった。街中では、韓国の海苔巻きを売る店が多く、かつて訪れた現地ではそんなに無かったのにと驚く。通勤客で一杯の電車に乗り、無事草加に着く。

谷　川　岳　雪　洞　山　行

▲日　　時　　２０１２年２月４～５日　　記：:尾崎　あや子

▲ メンバー　Ｌ浅井(照)　石井(美)　鈴木(勝)　鈴木(廣)　山口(裕) 菅野　三浦
大門　加藤　森　尾崎

▲2 月 4 日　松原団地 5:30…谷川岳駐車場 9:40～10:20…鉄塔 10:40 …雪洞ポイント 12:40…雪洞建設開始 13:00~15:30

▲　2 月 5 日　起床 6:00…スタート 8:00…ラクダノコブ 10:20…雪洞ポイント 11:10～11:40…登山センター13:00…湯テルメ谷川温泉 14:05～15:00…草加 17:35

入会して１２年目にして始めての雪洞体験でした。
眠る時は寒くないのか、雪洞は崩れないのか…？今年はエィッと一歩踏み出しました。

１日目　雪洞へ出発

谷川岳駐車場から歩き出し鉄塔へはいきなりの急登です。
わかんを付け私たちの前に出発した別のパーティーが作ってくれた道を、歩けたので随分時間短縮が出来た。

今年は例年に比べ雪の量が多いそうです。西黒尾根を通り雪洞設置現場に到着。
道具を揃え左側からと右側からとチームに分け、横に掘り進む。

掘り出した雪はブルーシートの上に積み正面の斜面に落して行く。
なるほどと関心するばかりです。
3 時間かけやっと横穴貫通です。
幾つかのローソクが灯され幻想的な雪洞の完成です。
夜は狭いながらも心配していた程の寒さでも無く、雪洞の中で美味しいすき焼きも頂き９時就寝。翌朝には雪洞の天井が雪の重みと室温（？）で 2～３０ｃｍ低くなっていました。

大　雪　洞　完　成

２日目　ラクダのコブへ

朝食を摂り８時スタート。昨晩からの積雪が２～30ｃｍ位。さすがにトレースも無く、新雪の中を順番にラッセルです。頂上の近くは急登で雪の量も多い為、男性人にラッセルして頂き、ピッケルで腰の高さ位の雪をかき分け前進です。コブの直下ではクサリが雪の下に埋もれているので、ザイルを張ってもらい無事ラクダのコブ頂上に到着です。天候もスタート時は雪混じりの曇空でしたが登るにつれ雲が切れ、谷川岳の雄大な山々が雪をかぶり、青空の下綺麗な雪景色を見ることが出来感激しました。
天候にも恵まれ、雪山の醍醐味を実感出来た２日間でした。
リーダーの浅井さんを始めメンバーの皆さん、楽しい雪洞体験ありがとう御座いました。

雲龍渓谷　素晴らしき氷瀑かな

◆日　時　:2012年1月29日　　記:山口　裕史

◆メンバー:L 山口(裕)、山口(敏)、三浦、菅野　(敬称略)

◆コ ー ス:6 時間 40 分(氷瀑見学 1 時間以上)

6:50 駐車スペース 7:20～7:25 ゲート→8:10 展望台→8:35 洞門岩→9:10 広場→9:20 友不知→**9:30** 燕岩の氷柱 **9:45→9:55** 雲龍瀑(昼食)**11:05～11:35** 洞門岩→**13:30** ゲート

昨年初めて雲龍渓谷の氷瀑を知り、今年は是非見てみたいと考えていた計画です。我が家から日光までは 150 キロ位で富士五湖まで行くよりも近く意外にアクセスの良い場所である。時間的には早く出てきたつもりだが、駐車場は既に埋まり路肩スペースというか雪の中に駐車している車も出始めていた。雲龍渓谷の人気を改めて感じる。いよいよゲートを潜り出発するが洞門岩までは車道である。前回の塩見のように凍結しているわけではないので比較的歩きやすい。折り返し登っていくが、場所を見ては直登ショートカットする。

洞門岩からは少しはハイキングっぽい細い登山道となるが、広場の階段を下り少し進むといよいよ友不知が見えてきて自然と足取りも速くなる。

その姿を目の当たりにし、今まで見たことのない宮殿のような姿。青みがかった神秘的な氷瀑に感動した。奥へ進んでいくと高さは 10m 以上、3 人でも抱えきれないほどの氷柱がお目見え。この柱の青は神秘的で安らぎを感じる。

お次はさらに奥に入り雲龍瀑へ向かう。若干の急斜面を登り、横にトラバースする感じで進むと最後の砦、雲龍瀑が目の前に飛び込んできた。高さ 70m 程度はあろうか!近くで見ると大迫力の青い芸術品。

そのアイスフォールに立ち向かうクライマーがまたスゴイ。ダブルアックスとアイゼンのつま先を頼りに登っているわけだが、ワイも試しに普通のピッケルを打ち込んでみたらこれがほとんど入らない。構造や研磨の仕方が違うとは言えドンだけ大変な作業なんだと感心した。1 パーティーが終わり懸垂下降で降りてきていたが、これが氷柱をバリバリと崩しながら降りてくる。この光景には興ざめしたが、それでも雲龍瀑の魅力が崩れ去るほどではなかったかな。それにしても雲龍渓谷は絶景だ。きっと雪山初めて登る人を連れてきたら感動するだろうなーと思い、来年以降もまた訪れたい場所となった。

シリーズ『峠』第一回 西上州　法久峠～雨降山ほか

■ 日　　程　H24.2.11（土）-12（日）　　記:小林　いつ子
■ 場　　所　西上州　法久峠～雨降山　と　杉の峠～父不見山（ててみず）～坂丸峠
■ メンバー　Ｌ園木・松浦・下川・樋口・小林い
■ 歩　　程

2/11　7：01 南越谷発武蔵野線大宮行大宮乗換え＝ＪＲ高崎線新町 9：05＝バス
－10：10 露久保バス停着―11：30 法久峠―12：50 雨降山（東峰は途中リタイア）
―13：40 石神峠手前のコル（バスの都合で、峠はパス）―14：55 法久バス停
―バス＝15：08 今井屋旅館着泊

2/12　8：40 今井屋旅館―10：50 杉の峠―ランチー12：30 父不見山―13：55 坂丸峠
－14：40 長沢バス停＝西武秩父駅

一日目

峠シリーズ一回目！快晴に恵まれ、露久保の登山口までの電車とバスの長い道中が始まった。まず驚いたのは、武蔵野線が乗換えなしで大宮まで行ってしまったことだ。武蔵浦和から埼京線に入り込むようだ。これから何かに利用できそうな気がする。

高崎線の新町でバスに乗り換えて一時間。バス停からいきなりの急坂を露久保の登山口に向かった。村までは舗装道路があるのだが、私達はかつて村人が利用しただろう道をたどった。村に着いても人がおらず、法久峠への道がなかなか見つからなかった。畑仕事のお年寄りに道を尋ね、今は全く使われていないその道を藪山状態で、法久村に繋がっている電柱をたよりに上っていった。

洋服に付いた雑草の種を取りっ子している姿は猿のノミ取りの様だと大笑い！！と、ここまでは穏やかな小春日和の道だった。林道に出ると残雪で足元が気になるし、風も少し冷たくなった。

記念すべき一つ目の法久峠は景色も良く、下に法久の集落、東に御荷鉾山を望める。

雨降山へはここの駐車場に車を止めて、軽いハイキングが楽しめるようになっている。

12：50 雨降山到着。北側は開けていて眼下に高崎の町が広がっていた。そのまま東峰に下るが、細い道は完全に凍って、アイゼンを着けていない足の置き場所がなく、傾斜もきつい。

リーダーの判断で東峰は断念した。私は「怖い」！！と、その時は正直おじけづいた。ここから先は完全に道は無く、尾根伝いに石神峠に向かった。林道（石神峠に続くコル）に出た所で帰りのバスに乗るため、石神峠は諦めることになった。林道を外れ、入り込んだ作業道は切り倒した杉で寸断されて、回り込み・もぐり込みしているうちに、その道までも無くなり、強引（やけくそ）に村へ続く道を目指し下山決行！本日二度目の藪こぎを楽しんだ。とんでもないところから飛び出した私達に、たまたま歩いて来た人がギョッとしていた。

そんなこんなで法久のバス停には余裕で着き、20 分程でバスは今井屋旅館玄関に停車。女将さんの「いらっしゃいませ！！」の一言でこの日の山旅が終わった。

万場町は古く、信州佐久に通じる宿場町で今井屋旅館は、中でも老舗として創業 350 年の歴史を誇る。火事で一度建て直し、今の建物は 100 年程前の木造三階建ての風格ある旅館であった。玄関にはレトロなラジオなどがあり、気分は昭和初期へタイムスリップだ。部屋に荷物を置いて暗くならない内に万場の町を散歩した。町外れの神社にお参りして、酒を仕入れ、夜の楽しみの準備には怠り無い。食べ切れない程の美味しい夕食に全員大満足であった。宿の自慢は鳥すきと手打ちそば！　作家尾崎喜八の定宿としても知られる。

二日目

8：40 万場の町を生利まで戻り、父不見山（ててみず）登山口へ向かった。舗装道路を暫く上り、杉林の中を左に入った。其処ここに[マウンテンラン・ウォーキング]のマークがある。暖かくなると大勢の人がハイキングを楽しむのだろう。道は昨日と同じで、残雪が多くなり足元に気をつけながら歩いた。
10：50 杉の峠。先着のご夫婦が食事の準備をしていた。父不見山頂は風があってとても寒く、ここまで戻ってからの昼食らしい。

峠は南側が開け、祠と小さな灯篭が二つ、小鹿野の集落に向いて奉られている。
いい情報を頂いたので､リーダー特製のおでん鍋は風の無い陽だまりでのランチとなった。何時もながら、手を抜かない準備と食材に関心しながら、蓋が浮く程の量を完食！
園木さん！ゴチになりました。これでリーダーのリュックは 3ｋｇは減量かな？！
12：30 父不見山頂。木々に囲まれ展望は良くない。

私の地図には父不見は「ててみず」とあり、他の地図には「ててみえず」ともあるが、他にも土地の方言での言い方もあるようだ。

道は樹林に入った。残雪もあるが暖かい時間帯なので、わりと楽な下山だった。
13：55 三つ目の坂丸峠着。父不見山・小平・矢久・そして私達が下りる長沢を分ける。峠の祠は大木の間に隠れていた。傍らには朽ちた木が今にも倒れそうに立っていた。
14：40 長沢集落に無事下山。二日間の楽しい峠の旅は終わった。日陰になったバス停は山より寒く、私達はやっと来たバスを大歓迎！歓迎された若い運転手さんは滅多に乗らない場所に 5 人も客がいたのでこちらも相当ご機嫌だった。

私は今まで『峠』だけを意識して山に来たことが無かった。今回、参加させてもらい『峠』とは･･･？！山でさえぎられた村々をつなぐ大切な生活道であり､重い荷物を下ろして遠い他国に思いをはせる所かな･･･？なんて、少しセンチメンタルな気分になった。
そして、峠には必ず祠と石仏が奉られて、周辺の人々の生活を見守っていた。

園木リーダー・メンバーの皆さんお世話になりました。二回目もぜひ参加したいと思います。本当にありがとうございました。

雲竜渓谷（1200m）

記：森　律子

日　　程：2012 年 1 月 28 日(土)
メンバー：L 山本、阿部、小林い、小宮、下川、新島、山崎、森（敬称略）
コ ー ス ：草加駅西口 **5:30**→駐車場 **8:10**→雲竜渓谷入口 **10：40**→雲竜瀑 **11:30**～
12：10→雲龍渓谷入口 **13：10**→駐車場 **15：10**

温かい地域出身の私にとって、全面凍結の滝ってどんなものだろうと思い参加させていただきましたが、自然の作りだす美しい景色にかなり感激しました。

駐車場からは延々と続く林道を 2 時間ほど歩いていたのですが、だらだらと続く林道にちょっと飽きあきしてきたら、やっぱり山の会の人たちです、林道外の藪の中にトレースを見つけては藪こぎならぬ、雪こぎで､「やっぱりこれじゃないと山に来た気がしないね～」と話しながら、温かい日差しの中、渓谷の入り口まで辿りつきました。

滝の全景

渓谷に入ると、そこは、すっかり別世界･･･「ナルニア国物語」の「氷の女王」が出てきそうな、左右に凍りついた滝を見ながら歩き、目的地までは、人が多かったので、道を譲り合いながら雲竜瀑に到着すると、地元山岳会と県警の合同訓練を見学できるという、おまけつき！

県警の訓練風景

氷の壁から人の力だけで、救助者を救助する様子に、ちょっと感動しました。
どんな山でも危険はつきものです、日ごろから心の片隅に、危機の対処について考えておく必要があると感じました。
「山の会」に入会させていただき、初めて迎える冬山シーズンですが、冬しか出来ない山歩きの楽しみもいっぱい教えていただいた山行になりました。

また、水が時を止めた様に、流れのまま凍りつき、お日様の光を受けて、青白く輝く様子にすっかりパワーをもらった気分です。

今年はとても雪が多くなりそうですが、何だかすっかり雪山が楽しくてこの季節にしか味わえない山歩きに、いっぱい参加させていただきたいと思います。

（寒いと、しもやけや冷え性で嫌な季節だったのですが、いつの間にか冷え性も忘れ･･･いや～人間変わる物ですね！）

山行紀行　～冬～

記：浅井祐子

▲ 2011.12.24-25 八つ天狗岳　L.石井、浅井、松田、山口敏、小野寺、森、加藤、祐子、

12/24 特急で茅野 = 渋の湯 10:45 - 黒百合ヒュッテ 14:45 着（アイゼン歩行練習兼ね散策）

12/25 小屋 7:30 -天狗岳 - 高見石小屋 10:20-11:20 - 渋の湯 14:10 = 茅野 = 草加 20:40

雪の北八つは幾度でも訪れたい。新しいメンバーだと楽しみも倍増！天候は今一だが白に染まる雪景色の中に身を置けるだけで満足だ。小屋ではプレゼントありチキンありでまさにホワイトX'mas!翌日は極寒の中、天狗をアタック、高見石へと北八つのメインコースを楽しむ。新人２人に期待大～!!

▲2012.1.7. 黒斑山　L.祐子、小林い、森、加藤、樋口、

草加 5:30=車坂峠 8:30/9:00 – 黒斑山 11:00?- 車坂峠 = 菱野温泉 = 草加 17:00?

加藤さん森さんの女子２人が嬉しい事に雪の山に興味を示す。余り難しい山は無理だけど危なくない山なら私にも…で黒斑山へ。冬は天候一つでとんでもないことになるので、その時は勘弁！と覚悟して向かうが幸運にも良い天気。樹林帯の中を進みトーミの頭に出るとどでかい浅間がどーんと顔を見せる。下山後には一昨年の会員バスで宿泊したケーブルカーで行く天上露天風呂の菱野温泉で温まる。やっぱり雪は楽しいな～!!

▲2012.1.28　金時山　L.祐子、昭光、

草加 = 御殿場 = 公時神社Ｐ8:00 - 金時山 9:30-10:00 - P11:00 = 入浴= 草加 14:40

私はとにかく「週末に家に居る」ことに果てしなく罪を感じる。特に天気が良いとなれば悔しくて居た堪れない。こんな女を嫁にした夫はさぞかし後悔しているだろう。休養を望む夫を叩き起こし山へと拷問の如く連れ出す。が実に見事な富士山に出逢えた。先日関東を白く染めた雪のおかげでアイゼンさえも楽しめる。明日は筑波山だ～！と吠えた私の横で、夫の顔は引きつっていた…。

▲2012.2.4.　官の倉山～金勝山(小川町)　L.山崎、山口敏、樋口、祐子、他１名

小川町 7:35 - 官の倉山 9:30 - 吉田家住宅 11:00 - 金勝山(昼食)12:00-13:30 - 竹沢駅

雪の山が続いたのでちょっと里山でも..と参加。が侮ることなかれ、344mと言えども急峻あり素晴らしい眺望ありで、埼玉の山を見直す1日となる。秩父七峰縦走コースの一部でもあるこのコースだが、今後の山の会の記念行事山行にも充分楽しめそうな予感…。一度里へ下り、県内最古の民家である吉田家住宅を見学しながら囲炉裏端で一服。地元の少年達が竹トンボ作りを楽しんでいる光景に癒される。東武東上線を横切り金勝山の頂へ。ぽかぽか陽気に気を良くしプチ宴会で盛り上がる。

▲2012.2.11. 日光・社山　L.祐子、山本、山崎、小宮、加藤、森、

草加 5:30 = 中禅寺湖南 P7:30 - 阿世潟峠 9:40 - 社山 11:20-50 - 往路戻る - P14:30

ハイ、今週も浅井祐子は家には居ません!! ついにスノーシューを買いましたからね～。雪山に乗り乗りの森ちゃんや加藤さんを誘っての社山です。１時間程湖畔を行き阿世潟峠へと上がる。当初行ける処まで…で臨みましたが、好天と皆の足並みが揃っていたので、社山頂からはいつもと違った奥日光の風景が楽しめた雪上ハイクとなりました。スノーシューも最高！

まだまだ、これからも春の残雪の山が楽しみです！

甲州街道てくてく歩き第６回

（鳥沢～笹子１９㎞）

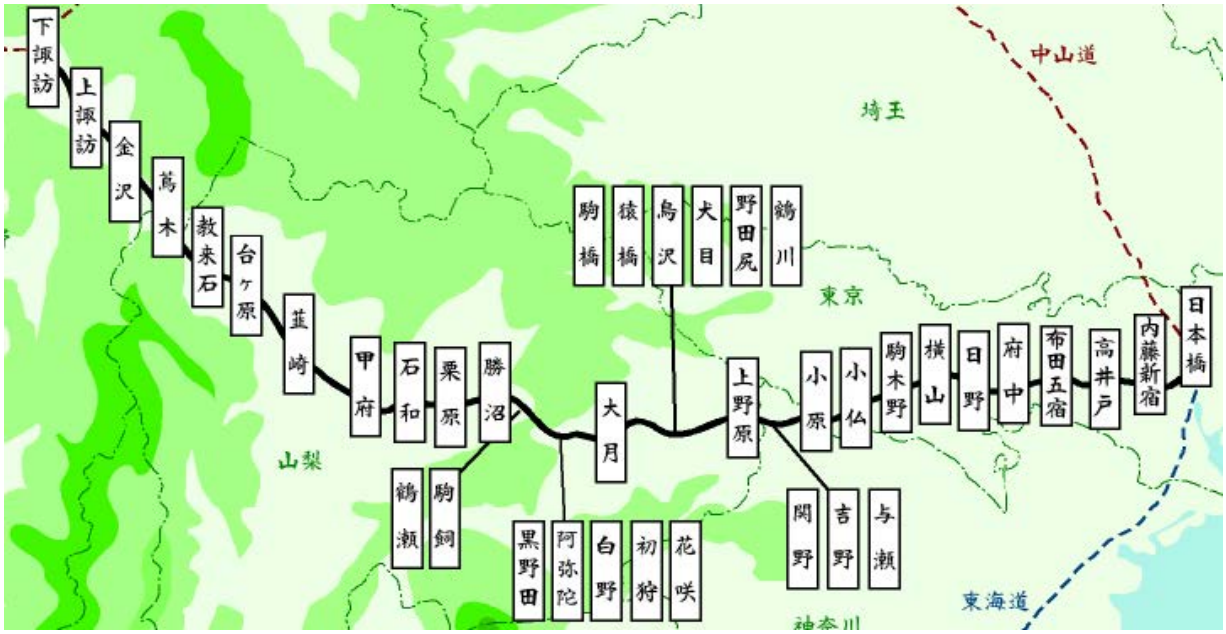
平成２４年２月１２日(日)　天気晴れ、ときどき強い向かい風、温度８度
歩いた時間：７時間２５分（休憩含む）
参加者：L.石井(美)、黒沢、小林(陽)、鈴木(里)、大木、平野、上原、木原、田村、
杉山、大門、大畑、渋谷、鏑木、和田、阿部、鈴木(廣)、池本、石井(文)
計１９名

コースタイム：南越谷 5：51＝＝西国分寺 6：32～33==立川 6：43＝＝鳥沢 7：30～45
鳥沢～猿橋 8：30～大月郷土資料館 9：10～30～下花咲一里塚～
下花咲本陣星野家住宅～昼食藍屋１時間～山本周五郎生誕地～
笹一酒造～笹子駅 15：05～35＝＝高尾 16：31＝＝西国分寺 17：06
＝＝南越谷 17：46

３か月ぶりの街道歩きで、天気は良いのですが肌寒いです。
冬の日曜日で登山者が少ないせいか、西国分寺で一本早い電車に乗る事が出来、鳥沢駅に 10 分早く着きました。
美樹さんからこの辺りの地名にちなんだ桃太郎伝説の話を聞きました。
「桃太郎（百蔵山)が犬（犬目宿)と猿(猿橋)キジ(鳥沢)をつれて鬼退治(岩殿山)に行った。」という話です。
４５分程で甲州街道一番の名勝「猿橋」に到着、{猿がつながって対岸にわたる姿を見て造ったといわれ、長さ３０ｍ、幅３ｍ、水面からの高さ３１ｍ。山口錦帯橋、徳島かずら橋と共に日本の三大奇橋といわれています。}
猿橋で名物の猿橋まんじゅうを食べるつもりが、店が開いて無く和田さん次参の甘い饅頭を頂きました。木の橋なので足にやさしくあっという間に渡り終えてしまいました。記念写真を撮り近くにある大月郷土資料館(団体割引 80 円)を見学しました。ここには、大月の歴史がわかる展示品の他に大月出身の白旗史郎の富士山の写真が沢山展示してありました。
私は、富士山の見える山を何回か登りましたが、絶景の富士山に合う事が少ないので、白旗さんは、シャッターチャンスの為に何時間も待ったのだろうかと、考えてしまいました。

猿　　橋

駒橋では、水路が見えてきました。明治 42 年火力電力不足を補うために造った水力発電発祥地の水路だそうです。
「厄王神社」にある昭和 20 年 8 月 13 日空襲の記念碑を休憩がてら見学し、強い北風に向かいながら歩き、岩殿山が大きく見えてきました。
大月駅付近の商店では、3 月の節句が近いので沢山の吊るし雛が飾ってありました。
11 時下花咲本陣星野家住宅に到着し、見学より腹ごしらえと隣の藍屋で昼食ということで 1 時間とりました。
星野家住宅は 12 時から 1 時半まで休憩と知り見学は諦めて歩き出しました。
諏訪神社では、一つの幹から 3 本や 4 本にわかれた杉の木や、本殿は日光の東照宮にも劣らない彫刻が施されているのに感激しました。
甲州街道は、全行程 211ｋｍですが、約半分の 100 ㎞を過ぎたあたりに山本周五郎生誕の地の碑が建っていました。山崩れがあって屋敷は残っていませんでした。
　道路の脇、藪の中でガサガサ音がしたと思うと鳥が飛び立っていき、飛び立つ方を見たら雉でした。「雉も鳴かずば撃たれまいに」ということが言われますが雉は驚くと飛び立つ習性があるのかなと思いました。
　14：45 笹一酒造で試飲をし、缶に入った原酒を勧められるままに買ってしまいました。笹子駅発 15：35 の電車乗り、南越谷で 1 時間打ち上げをして帰りました。
　今回は、童話「北風と太陽」の旅人のように上着を脱いだり着たりして体温調節をしながら、緩やかな登りが続くコンクリートの道を１９㎞あるいたので足底がジーンとしました。
次回は、4 月 8 日(日)、笹子駅から笹子峠越えて甲斐大和駅までの約 12 ㎞です。
標高差は 400ｍあり、桜が咲いている街道を歩く予定です。　　記：石井　文子



甲州街道宿場

三つ峠～本社ヶ丸縦走 新雪を楽しみに

記：山口裕史

◆山行日：２０１２年２月18日

◆メンバー：L山口（裕）、山口（敏）　（敬称略）

◆10時間40分(休憩込み)

河口湖駐車場 6:20～6:55 富士見台(カチカチヤマ)7:10→天上山 7:18→霜山 8:10→鉄塔 8:30→木無山 9:45～10:10 三つ峠(開運山)10:45→御巣鷹山 11:00→茶臼山 11:50→清八林道 13:05～13:25→清八山 13:35～14:15 本社ヶ丸 14:35→鉄塔(新道分岐)15:10→林道横断 16:10→笹子駅 17:00

前日まで予定していなかったのですが、金曜の降雪に翌日は晴れの予報を見てこれは新雪を踏みに行かねばと急遽計画を立てました。18日は山中湖からダイアモンド富士が見えるため御坂山塊で一登りしてから山中湖と思っていましたが、当初は黒岳経由の周遊を予定していましたがとても間に合わないので大幅に変更して縦走しました。

三つ峠は3度目、初回は最短ルートのピストン、2回目は浅間神社から、そして今回は河口湖南の尾根歩きを楽しむことにした。カチカチ山は全くのノーマークだったが、富士山に程近くまさに絶景でビックリした。地面に薄っすらと雪がついただけだが、まだ誰も歩いていない白い絨毯に足跡を残すのはこの上ない贅沢だ。

三つ峠までは思いのほか遠くほとんど展望のない歩きだが、新雪が木に積もりまるで霧氷の下を歩くみたいで飽きない登りだった。三つ峠からの富士山は何度見ても素晴らしい。そして、その先にある清八山も本社ヶ丸とも富士山の展望がよく満足できる山だった。

三つ峠は下から登ると意外に歯ごたえがある良い山だ。

御坂山塊の登山道はほとんど樹林帯に覆われ展望はあまり良くないが、山頂などスポット的に開ける場所からの景色は一見の価値がある。次回は、御坂峠から黒岳を経て節頭ヶ岳までルートを繋げたいと思う。

山旅

妙法ヶ岳（奥の院）と三峰神社の御朱印

園木　毅

三峰神社駐車場（10：35）～妙法ヶ岳（三峰神社奥の院）（11：40～11：45）

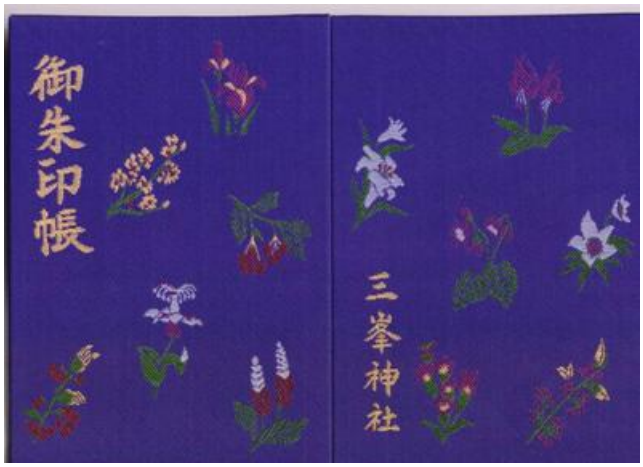
～三峰神社駐車場（12：30）三峰神社参拝と温泉（12：30～13：40）

鉄道や路線バスに乗っていろいろな楽しみを求めて山に行くことを私は『山旅』と言って山登りとは区別して楽しんでいます。季節は初冬から桜の咲く頃までが山旅の季節です。何よりの楽しみは温泉に浸かり下山祝いと称してまずはビールで一杯やるのが目的で時には駅前食堂だったり手打ち蕎麦屋だったりラーメン屋だったりもします。駅前を散策して地酒のワンカップを買い込み各駅停車に乗り帰途に着く。楽しかった山旅の締めくくりです。先日なんとなく見ていたテレビ、旅の途中でその旅人は参拝した神社で御朱印を頂きながら旅をしていたそんな旅番組でした。何故かふと三峰神社のことが思い浮かびました。雲取山への登山、下山後通過する程度でいつも時間に追われて参拝したことは無かったように思います。調べてみると三峰神社にはオリジナルの御朱印帳があることを知り、早速妙法ヶ岳を目指すことにしました。

ロープウェーは廃止され西武秩父駅からバスに揺られること一時間半やっと三峰神社に到着です。乗客は雲取に向かう二人と私のみ。妙法ヶ岳で展望を独り占めした後お目当ての御朱印帳と御朱印を頂きました。神社が想像以上に立派で宿坊には温泉がありびっくり。

もちろん湯上りのビール、またバスに揺られ三峰口駅へ駅前食堂、蕎麦、秩父錦のワンカップそして秩父鉄道車中の人となりました。

しかし、こんな私には御利益は望めませんが、『後朱印を頂く山旅』またひとつ楽しみが増えました。



北横岳・三ツ岳・雨池山

記：三浦　藤博

◆ 日時　2012 年 2 月 26 日（日）
◆ メンバー　L 山口（裕）、森、菅野、三浦

技術度　★★　（ラッセル、シリセード）
体力度　★

＜ コースタイム＞　7 時間 20 分(休憩込み)
加賀 IC 4:00 ⇒ ピラタスロープウェイ駐車場 7:05＝9:00 山頂駅 9:05＝9:50 北横ヒュッテ 10:05＝10:15 北横岳山頂 10:35＝北横ヒュッテ 10:45＝三つ岳分岐 10:50＝11:15 三つ岳山頂 11:45＝雨池山 12:45＝雨池峠 13:00＝縞枯山荘 13:10＝13:25 山頂駅 13:40＝ピラタスロープウェイ駐車場 14:25 ⇒ 15:00 小斉の湯 16:00 ⇒加賀 IC 19:00

当初、2 月 25 日（土）に行く予定だったが、天候不良のため 1 日順延となる。天気予報では、☀マークだが東京マラソン開催日は不思議と天候が崩れる。雨・雪が降らなければいいのだが･･･ピラタス蓼科ロープウェイ山麓駅駐車場に着くと曇り空。雪でなくて一安心。

ロープウェイを利用すれば 8 分で山頂駅まで行けるのだが、ロープウェイが動き出す前に山頂駅まで登りきろうと、いざ出発。
登山ルートにはトレース有り、雪もそれほど積っておらず、ワカンを装着せず登って行く。途中、天狗岳や南アルプスがきれに見え快調に進む。ところが、山頂駅直下 10 ㍍位でルートがわからなくなる。雪が柔らいため先には進めず立ち往生。今更ワカンを装着するのも癪に障る。　そこへ、後から来た 2 人連れのパーティーが山頂駅までのルートを作ってくれ、やっとのことで山頂駅に到着。着くとロープウェイ組が駅前広場にいた。あ～、タッチの差で先を越された～！

山頂駅からは、小さな凹みを越えて坪庭にでる。夏は、岩や灌木の庭園のようだが、冬期は雪に覆われて一面真っ白。ルートを示す旗竿が点々と立っている。
しばらく歩くと小さな沢を越える。

針葉樹林の中を右手の樹間に縞枯山（しまがれやま）を見ながら登って行く。途中、スノーシューを装着した数組のパーティーに道を譲りながら進む。三ツ岳へ行く分岐点を少し過ぎる

と左手に北横岳ヒュッテが見えてくる。小屋の前には天狗像が立っていて、みんなを出迎えてくれる。この小屋は通年営業。ただし、宿泊するには予約が必要とのこと。ここから先は、少し傾斜のきつい斜面を登って行くため、１２本アイゼンを装着する。10 分位登ると、周りの針葉樹の丈が低くなり北横岳南峰（2472.5 ㍍）に着く。ガイドブックでは、頂上からの展望は絶景で、富士山、南八ヶ岳、南・中央・北アルプスの山々が望めると書いてあったが、残念ながら雲がかかり見えない。ただし、樹氷や霧氷ができていて、とても美しかった。

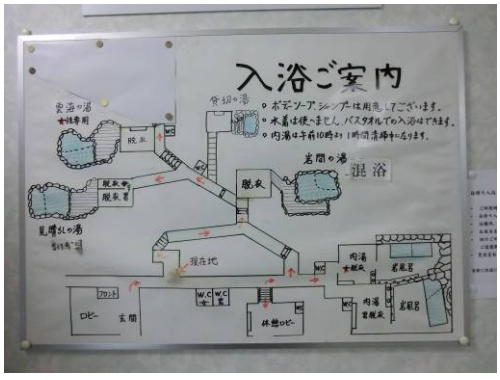
北横岳には南峰・北峰と 2 つの峰があり、最初に着いた南峰から 7～8 分行ったところに北峰がある。こちらの方は、標高が 2480 ㍍と少しだけ高い。メンバー全員が、道標を囲み「ハイ、チーズ！」三ツ岳へは、北横岳ヒュッテから少し下がったところにある分岐点から入る。あまり人が入らないルート。途中すれ違った中高年パーティーに「ラッセルしておいたから」と言われ、できあがったトレースをラッセル無しで進んでいく。ところが、三ツ岳手前の下り斜面で単独行の 3 名が、「この先に岩場があり、ルートが不明のため引き返します。」と言って、次々に戻ってくる。引き返さないとダメかなと思った矢先、山口リーダーがルートを見つけ、三ツ岳にたどり着く。

三ツ岳は、巨大な岩が堆積（たいせき）してできた山。雪が積もっていたためスムーズに岩場を歩くことができた。だだし、岩の間に落ちると一人で出るのが難しいと言われているので、油断は禁物。少し慎重に歩く。岩場の平坦なところで休憩を取っていると、空から雪の結晶が舞い降りてきた。森さん、菅野さんが「初めて、雪の結晶を見ました～！」と感動の様子。

三ツ岳からは、雨池山（2325 ㍍）を経由して縞枯山荘へと下山する。斜面が急なので、メンバー全員がシリセード。一気に鞍部まで下りる。鞍部から雨池山までの登りは、トレースが無く交代でラッセル。先日の谷川岳雪洞のおさらいである。

雨池山の山頂付近では、道標が見当たらなかった。縞枯山を前にして分岐点の雨池峠まで下り、縞枯山荘に到着。帰路もロープウェイを使用しないで、途中スキーゲレンデを横切りながら、無事、駐車場まで下りる。

下山後は、近くの『小斉の湯』に立ち寄り汗を流す。内湯と露天風呂が別々の場所にあるため、内湯に入ってから一度着替え、露天風呂に入る。露天風呂からは、南アルプスの展望がすばらしい。ただ、時間がなかったので混浴風呂（水着着用不可）に入れず、残念無念。入浴料 600 円、非常に満足のできる温泉だった。



今回は、思いのほかラッセルが多い日帰り山行であった。ただし、充分雪山を堪能できた。やっぱり、雪山は楽しい～！

花の山旅10回目

秩父･四阿屋山（あずまやさん）山行報告　771．6m

記：染谷智行

日　時　：２０１２年　２月２６日
参加者　：Ｌ．畑野，小林(い)，上原，千葉，新島，張替，渋谷，樋口，大門，染谷

【コース】

ＪＲ南越谷集合６：００－６：０６＝新秋津＝秋津＝飯能＝西武秩父着８：１１
バス８：２４＝小森バス停９：10～９：２０→つつじ新道登山口９：４５→
分岐１０：２５→鎖場１１：００→福寿草園地―両神神社奥宮１１：２５→四阿屋山１１：４５→福寿草園地１２：１５～２：５５（昼食）→薬師の湯１３：４５～１５：１５＝西武秩父＝秋津＝新秋津＝新三郷

２／２４（金）午後、小林いつ子さんからお誘いのメールが携帯に入り、花の山旅リーダー園木さんから畑野さんにリーダー変更で参加者を募っているとのこと、体の鈍り解消に久しぶりに参加を決めた。　当日、南越谷Ｓｔ車内で参加面々と合流する。秋津経由で西武秩父駅、バスで小森バス停下車、身支度後四阿屋山頂目指し出発する。押留コースを右に見て、
ハイキング道つつじ新道の急登を進む。クサリ場の直進を行くが、安全を考え山居えの分岐まで戻る。山居まではかなり下らされた。福寿草園地では、お目当ての黄金色した福寿草、透き通る花びらの蠟梅に体面でき越冬してきた春を告げる暖かさを感じた花々である。山頂へは、男坂の段々の多い登りであった。途中、展望休憩舎で休憩、両神神社奥社当たりからは昨日降ったと思われる雪が残っていた。登りが急になりクサリ場を通過すると目的の四阿屋山頂に到着した。山頂は狭く我々１０名が立てる程度である。武甲山、両神山、二子山がハッキリ見えた。長居せず、展望休憩舎迄下り昼食をした。

帰路、ロウバイ・福寿草園地で地味な節分草も見られ下山する。

道の駅・薬師の湯に浸り又、秋津で打ち上げし帰宅する。

最後に、畑野リーダー、誘って頂いたいつ子さん参加者の皆様有難う御座いました。

塩見岳　　（顛末記）

記：長田一樹

◆山 行 日 ：2012 年 1 月 7 日（月曜日・祝日）
◆メンバー：L 石井、浅井（照）、松浦、鈴木（勝）、三浦、山口、長田（敬称略）
◆コース：6:35 駐車場 7:10→土砂崩落地点 7:45→塩川小屋 8:05→9:00 尾根取り付き間近でメンバー負傷 9:40→塩川小屋 12:10→13:20 土砂崩落地点 14:00→15:30 駐車場

通常の山行記録とは違うので、悩みましたが主に怪我発生から現在に至るまでを書いてみようと思い書きました。参考になるか解りませんが何かのヒントになれば幸いです。
前泊のテントでは 4 時間ほどだが割と快適に眠れた。出発前日の新年会で若干飲み過ぎ寝不足だったが少し解消出来たようだ。懸念していた喉の痛みと頭痛も治まり、風邪の引き初めかと用心の為持って来た薬も必要なさそうだ。
朝食は摂らずにテントを撤収して道の駅を出発、30 分程度で登山口近くの駐車場に到着。此処で朝食を摂り各自装備を整えたら石井さんを先頭に出発。
通行止めの林道を進んで行く、所々凍り上に薄っすらと雪が乗っている状態だ。落石が有る様で道の真ん中に結構岩が落ちている。ほどなくして崩壊地に到着する踏み跡は有るが崩れるし通過には結構気を使った。少し歩いて閉鎖になった塩川小屋に到着。ここから川沿いの登山道になる､1600ｍ近辺までは川沿いを歩くので標高は稼げず､緩い登りとなる。雪は深く無く林道に比べれば気持ち多い位だ、新しい冬靴は保温性も高く快適だったが何回か滑りそうになった。凍結している上に薄雪というのは思った以上に厄介かなと頭の片隅で思ったのだが、すぐに今晩のすき焼きの事に切り替わってしまった。
先頭を変わりながら 1 時間歩いた辺りで先頭は勝さん二番目に私、木の橋と云うか木道のような緩い下りで右足がスリップ、滑った先に何故か靴一足分の穴が有り、そこに右足がハマリ固定される。体が左に傾き左足で踏ん張ろうとするが滑って駄目、ストックを突こうとしたが木道の幅が狭く、突けずに更に体が傾くと右足からポキンッと音が聞こえた。瞬間折れたと思ったが、こんな簡単には折れないだろうと尻餅をついた状態から痺れた右足を抜くと違和感が・・・曲がっちゃイケナイ辺りが曲がる感触に駄目だ折れたと・・・何をやっているのかと悔しさがこみ上げたが、更に皆に迷惑をかける、それより動けるのか？帰れるのか？といった不安が悔しさを上回る勢いでこみ上げて来た｡電話は通じない、通じたとしても沢沿いだからヘリは来れない。とにかくどうにか自分達で動くしかないのだ！噂には聞いたが激しく内出血しているのだろう急激な眩暈と貧血を起こす。この後、人によっては吐き気をもようしたりするらしいが、自分は大丈夫だった。ただ念の為駐車場迄飲食は控えた。患部を固定してもらい持参した痛み止めを服用してストックを松葉杖にしてもらい動き出すが動けない（汗）左右に付いて肩を貸して貰ったりするのだが登山道は一人分程度の幅しかないので無理、おぶってもらったりもしたのだが同程度の体重の人で無いと背負えないのと 10ｍ程度動くのが限界だった｡山で動け無くなるという事は死を意味すると何かの本で読んだが、その時は部屋で、のほほんとウィスキーを舐めながらだったから､全然意識しなかったが今は痛いほど解かる｡松葉杖状態のストックを右手に、長いピッケルを借りて左手に持ちバランスを取りながら歩き出す。前後に人に付いて貰い

何とか前へと動き出せた。しかし少し歩いては休みで、しかも上りや下りでは尻を着いて尺取虫のように進まないと行けない。荷物を持ってもらい軽身なのに足が片方動かないだけで、こんなに時間が掛かるのかと絶望的になる頃に塩見小屋に辿り着く、初めて本格的な冬山と楽しみにして来た三浦さんが脇に付いてくれる。こんな結果になってしまい、どう謝って良いのか言葉が見つからない。２泊３日の山行計画で来たのに登り出して 2 時間で帰らせる破目になった他のメンバーにも何と謝って良いのかも解からないが、とにかく今は自分で出来る限り動いて降りる事が先決だと自分に言い聞かせて動き出す。林道になり道が良くなったので両サイドから体を支えて歩いてくれるのだが歩行ペースが合わず、更に右足を上げて歩くのが辛いのと振動が右足に伝わり思いの外、歩き辛かった為一人での歩行に切り替える。退院して、しばらく経ってから飲んでいる席で、林道になったら担架を作って運んだ方が早かったねと気付き笑ったのは内緒だ。何度か転倒して、その度に痛みで叫んだりする、崩壊地のトラバースは地獄だったが皆さんに支えられ引き上げられ何とか通過して、どうにかこうにか車に辿り着く。長野の病院で診てもらうよりは地元に戻った方が良いと、帰りながら草加と連絡を取ってもらい夜間受付が出来る草加市立病院を予約してもらい向かう。連休初日な事もあり上り線は空いていて 21:45 には病院に着く。此処で家族と落ち合いメンバーから離れる。レントゲンの結果、手術が必要なのだが市立病院では最短で 24 日になるとの事でシーネ固定をしてもらい痛み止めを貰って他を探す事になる。どうしようかと思案していると沼田さんがメールで自分が通っている病院を教えてくれる。テルさんも通っている所で年中無休らしいので次の日に電話をすると連休最終日に院長先生が出ているので来て下さいとの事。9 日受診すると 11 日入院で 14 日に手術出来るとの事で予約をする。10 日にシーネ固定で出社して仕事を無理矢理片付け 11 日午後から入院する。腫れが引かない事には縫合が出来ないので手術 3 日前に入院して足を上げてベッドに横になる生活が始まる。脹脛が太ももくらいに腫れ上がり足裏から脹脛太ももの裏にかけて内出血で赤黒い、手術の麻酔が効かなくなるので手術までは痛み止め飲むのを禁止される。痛みで夜はあまり眠れず。14 日の手術は午後からと聞いていたが、前の手術が早く終わったようで昼前には準備に入る。初めての手術で不安だったが担当ドクターの大丈夫 100％安全だからとの言葉に不安が減る。全身麻酔が効く瞬間を確かめてやると意気込んでみるも、あっと言う間に撃沈。眼を開けた時は病室のベッドの上だった。右足の膝から下が酷く重く痺れていたが、それ以上に頭も痺れていた、母親と勝さんが居たのは判ったのだが酸素マスクが邪魔で上手く喋れない。次に眼が覚めた時には夕飯の時間だった。恐るべし全身麻酔、その間にドクター達と話したりレントゲン撮られたりしたらしいのですが記憶に残っていませんでした。

痛み止めの座薬が入っていたらしく、その晩は割りと眠れたのですが次の日の夜が地獄でした眠くないし痛みで眠れないしで大変でした。入院中は朝昼晩と体温を測るのですが痛みがある時は炎症を起しているので体温も高いというのは驚きというか感心しました。

腿までのギブス固定で、どうなる事かと思っていましたが４日後に消毒の為カット下半分のシーネ固定のようになります。25cmほどの縫い口はホッチキスの様な針でビッシリと留められていて、まるでファスナーのようです。20 日には退院しても良いと言われたのですが毎日消毒に来いと言われたので 22 日に退院に変更。23 日に抜釘消毒、入浴許可再び固定。27 日に歩行用装具仮合わせの為固定を開放、歩行用装具完成 1 週間後まで下半分のシ

ーネ固定状態。2 月 3 日歩行用装具完成、装着。２月 10 日よりリハビリ開始。
2 月 3 日から毎週レントゲン撮影でしたが 2 月 17 日以降２週間置きに変更。27 日現在未だ荷重は掛けられず。一番多かった質問の費用についてざっくりですが書いておきます。
市立病院初診料及び夜間診察料処置料薬代 20000 円、松原整形外科手術及び入院料 168000 円、歩行用装具料 125000 円（但し健康保険組合に請求で 70％返却）
＊通院リハビリ代含まず。リハビリは一回あたり 360～470 円、レントゲン消毒があると一回あたり 1500～2500 円です。
　通常軽い運動が出来るまでには半年以上かかるようです。怪我からの回復、復帰には時間とお金がかかります。怪我をしないことが一番だと思います。
自分も怪我はしないと思っていましたが起こりました。しかも難しい所ではありません簡単な所です。今こうして考えてみると起こるべくして起きた怪我だったなと思います。
山に慣れてきて装備の準備は大丈夫だが体調や心の準備が駄目だった。前日の深酒や新しい靴での山行等､滑って不安ならアイゼンを着けるべきだったのに横着して着けなかった。又あれもこれもやりたいと色々と欲張りすぎた結果でもあると思います。
正月休みに新しい靴の慣らしに行こうと思っていたがクライミングの誘いにのって慣らしに行かなかった等。今回は登り初めで、自力下山が出来たので良かったですが、もっと奥まで登っていたら稜線まで行っていたら恐らく自力下山は無理でした。ヘリコプターか消防・山岳警備隊のプロの助けが必要になったと思います。
私が言える台詞ではありませんが、山では怪我をしないのが一番です。してしまったら自力下山セルフレスキューが基本です。ですがどうしようも無いときはプロを呼ぶしかありません。埼玉県警山岳警備隊の飯田さんの講習を受けた時にハッとした言葉です。

【最近、山がブームなので県警の中で山岳警備の募集をかけたら応募が凄いだろうと思って応募をかけたのですがゼロでした。何故かと思ったのですが、理由は簡単でした 2010 年のブドウ沢での多重遭難です。本人は応募したくても家族を考えると出来ない又は家族に咎められるのです。もし救助を呼ぶ時には、そういう隊員達の事も少し考えて欲しい。山ではセルフレスキューが基本です。
どうにもならない時は遠慮なく呼んで下さい。
しかし助けに行く隊員にもリスクは有ります。その隊員には家族が居るのです。】

そういう講習を受けていたにも関わらず、今回こういった事故を起してしまった点を猛省しないといけない。安易な気持ちで山に入った自分にバチが当たったのでしょう。一緒に登る仲間が出来て、それが当然だと気が緩んでいたのだと思います。
ただ、怪我をして改めて周りの方々にサポートされていたのだと気付きました。
塩見メンバーの方々は勿論、会の方々、家族、友人、取引先、お客様にまで気遣って頂き本当に有り難いと思いました。怪我をしましたが、感謝の気持ちを気付かせてくれた良い機会で有ったと思います。本当にご迷惑ご心配をおかけして申し訳ありませんでした。
又お気遣い頂き本当にありがとうございました。安全を心がけて行きますので、これからもよろしくお願いいたします。

山の名前に「丸」「マル」と名付られた由来。

１、はじめに　　２０１２年２月２日　松浦　剛

続日本書紀に百済人を甲斐国の都留郡に移したとの記録がある。７世紀後半から８世紀時代に桂川流域に集団で百済人が移り住んだと書かれている。ＪＲ中央線に沿い流れている桂川は笹子峠より流れる笹子川と富士吉田より流れる桂川の水を集め水流を形成し人造湖の相模湖に流れ込んでいる。笹子川と桂川の合流点が大月の町であり、この地域に丸が付いた山がある事も事実である。大月市から西側には滝子山（「鎮西ガ丸」)、「コンドウ丸」「大谷ヶ丸」「ハマイバ丸」「大蔵高丸」と続き、麓からはこれら丸のつく山が見られる。これ等の丸の付いた山の名前は朝鮮からの帰化人が付けた名前であると言われている。甲斐国（山梨県）の都留郡にはこの他に本社ヶ丸などもあり、登山対象にない丸のついた山も有る。隣国の相模国（神奈川県）には丹沢に檜洞丸、畦ヶ丸、茅丸などがある。

２、丸の付いた山がある地域

調査によれば丸の付いた山がある地域は関東、中京、関西、四国、九州福岡周辺などで、山梨県より西側の地域である。これ等の地域はいずれも古代から帰化人が住んでいた地域であり、日本の土地や山の名前が朝鮮の帰化人やアイヌ人により付けられた例は大変多い。

３、山名に何故「丸」が付けられたか。

登山家の小暮理太郎氏はその著書「山の憶い出」下巻（昭和１４年６月発行）において、「山の韓国語はマルが最も古く、モロ、モリ、モイと転じ、最古語のマルが済州島に保存されたのかも知れない。」と書かれ、現在でも済州島では平地にある盛り上がった高いところをマルと言っている様だ。マルは古い韓国語で山を意味する言葉であり、山名にマルが付いている山はほとんどが、朝鮮の帰化人が日本の古代に名付けたと考えられる。

４、丸の付いた山の地域について

古代日本には多くの帰化人が朝鮮半島から来ているが、大和朝廷はこれらの人々を受け入れ、日本の国に帰化人が持っている多くの技術を利用し文化を高めた。この為に帰化人は文化的に遅れていた東国（関東平野）の開拓の為に相模国（神奈川)、甲斐国（山梨)、武蔵国（東京、埼玉、群馬）に派遣された。朝鮮の高麗国からの帰化人を奈良時代の７１６年に１７９９人派遣して出来た武蔵国の高麗郡は特に有名で、現在でも埼玉には高麗の地名が残っている。利根川以北は野蛮な奥州の国と言われ､帰化人は派遣されていないので、韓国語によるマルの山名がない様だ。こうした事より考えれば埼玉に丸の付いた山名があっていいのだが、残念ながらマルの付いた山はない。埼玉の南側である甲斐国の山梨には先に書いたように、大月市周辺にはマルの付いた山があるので、この地域がマルの付いた山名の北限という事になる。小仏峠が武蔵国と甲斐国の国境である。しかし一つだけ日光に袈裟丸山がある。江戸時代は袈裟山と記されているが、明治１０年の地図に初めて袈裟丸山と記されごく近代に名図けられた。この地の方言が山＝丸の様で、涌丸、枝丸と言う地名もあるようだ。

編集後記

早いものでもう年度末、あっと言う間の一年！新しい人達も大勢入会し、しばらく休んでいた“会員紹介”のコーナーを復活してみました。例会での声掛けに 19 名全員が原稿を寄せて呉れました。嬉しかったです。紹介の切り抜き写真その他、色々と山本さんが手伝ってくれました。思い出しながらの編集作業は少しは“ボケ”予防になったかも･･･ね？　えいこ

発　行　日	平成 24 年 3 月 25 日
編　集　者	小野寺　英子
発　行　者	松田　武 越谷市千間台西 3-2-12-206
発行団体	草加山の会